

2003 年 7 月「宮城県北部を震源とする地震」における住民の対応と災害情報の伝達

The Information Dissemination and Behaviors of the Inhabitants at the Miyagi-ken Hokubu Earthquake, 2003

中村 功 NAKAMURA Isao 中村信郎 NAKAMURA Nobuo
中森広道 NAKAMORI Hiromichi 廣井 脩 HIROI Osamu

目次

- 1 地震及び被害の概要
- 2 調査概要
- 3 被害と気象庁震度階
- 4 住民の行動
- 5 通信行動
- 6 情報ニーズと放送への評価
- 7 余震情報への態度
- 8 地震の連続と地震対策
- 9 自治体の対応と課題
- 10 放送局の対応と課題

附属資料 1 気象庁震度階級関連解説表

附属資料 2 放送局へのヒアリング結果

附属資料 3 アンケート調査票（単純集計結果）

キーワード：地震災害、防災、災害報道、通信、地震予知

執筆分担：廣井 脩（東京大学社会情報研究所） 1、2

中村 功（東洋大学社会学部） 3、4、5、7、8、9

中森広道（日本大学文理学部） 6

中村信郎（日本災害情報学会） 10

1 地震及び被害の概要

2003 年 7 月 26 日午前 7 時 13 分頃、宮城県北部を震源とする M (マグニチュード) 6.2 の地震が発生した。2 ヶ月前の 5 月 26 日にも宮城県沖を震源とする M7.0 の地震が起こったが、今回の地震は、午前 0 時 13 分に M5.5(最大震度 6 弱)、午前 7 時 13 分に M6.2(最大震度 6 強)、午後 4 時 56 分に M5.3(最大震度 6 弱)と、ほぼ同規模のものが 1 日に 3 回連続して起こるという特殊な地震であった。また 2 日後の 28 日には M5.1 (最大震度 5 弱) の余震も起きている。地震の後には余震確率が気象庁から発表されたが、前震 - 本震というまれなタイプであったこともあり、必ずしも十分なものではなかった。

この一連の地震による被害は以下の通りである。揺れの割には比較的軽微だったという意見もあるが、負傷者が 700 人弱、全壊家屋も 1200 棟を超えており、けっして小さいものではなかった。

7月26日から28日にかけての4つの地震による被害状況

人的被害	【宮城県】負傷者675名(重傷51名・軽傷624名)
	【山形県】負傷者2名(軽傷2名)
	計 負傷者677名(重傷51名・軽傷626名)
火災発生件数(宮城県)	3件
住家被害	全壊1,247棟(宮城県1,247棟) 半壊3,698棟(宮城県3,698棟)
	一部破損10,975棟(宮城県10,974棟・岩手県1棟)
	計15,920棟

消防庁調べ 2003 年 12 月 8 日現在

2 調査概要

この一連の地震について、東京大学社会情報研究所廣井研究室では総務省消防庁と協力して、地震時の住民行動、通信行動、余震情報への態度、連続する地震の防災対策への効果等を把握する目的で住民調査を行った。

調査の概要は以下の通りである。またそれと同時に、災害情報伝達の組織面の対応をさぐるために、震度 6 強を観測した 3 つの自治体と仙台における 2 つの放送局について、聞き取り調査もあわせて行った。

・調査対象地域	宮城県南郷町、矢本町、鳴瀬町(本震において震度 6 強を観測した地域)
・調査対象者	上記地域に居住する世帯の世帯主およびそれに準じる人
・調査方法	調査員配布・郵送返送法
・対象者の抽出	エリアサンプリング法
・有効回収数	550 サンプル(配布数 800 サンプル)
・調査期間	平成 15 年 9 月 5 日～平成 15 年 9 月 28 日

3 被害と気象庁震度階 — 震度階は被害を的確に表現しているか

気象庁では、阪神・淡路大震災の教訓から、1996年に気象庁震度階級を改訂し、それに併せて「震度階級関連解説表」を作成した。

これは震度ごとに人間、建物、ライフライン等がどのような被害を受けるかを記述し、ある震度による被害を具体的に予測できるようにすることで、的確な初動態勢を確立しようとしたものである。それまでも震度階級の解説表は存在したが、きわめて簡潔なものであり、また1949年に作られて以降まったく変わっておらず、現在の社会状況を反映したものではなかった。

本調査では、まず新規に作成されたこの「震度階級関連解説表」が、今回の地震における人間行動や被害状況をどのくらいの的確に反映しているかを調べてみる。

調査地域では、0時13分の前震では鳴瀬町、矢本町で震度6弱、南郷町で震度5強を記録した。そして7時13分の本震では3町とも震度6強を記録している。ここでは6強の解説表と本震による被害を中心に考察する。

「解説表」によると震度6強では人間の行動としては「立っていることができず、はわなないと動くことができない」となっている。本調査では「ほとんど動けなかった」人が46.1%と約半数となっており、解説表と実態との乖離はそう大きくはないといえよう。

また、屋内被害として、「解説表」では、「固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある」とある。本調査では家具の転倒が77.2%と大部分の家庭で発生している。他の多くの地域の状況と比較して、この地域の家具類の固定状況が飛びぬけていいという証拠は何もないから、おそらく多くの家庭では家具が未固定であり、それが移動、転倒したものと思われ、これも解説表と実態は適合している。

食器の落下は「解説表」では震度5強で食器類の多くが落ちるとある。本震では調査対象になった3町全体で、89.1%の家庭で食器類が落下しており(前震でも75.3%が落下)これも解説表はほぼ実態を反映しているといえるだろう。

屋外被害としては、「解説表」では「多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる」とある。本調査の結果を見ると、壁・天井の破損が60.0%、屋根の破損が56.0%、窓ガラスの破損が40.0%の家庭でみられ、解説表と実態のあいだの相違は少ない。けれども、ブロック塀に関しては、ヒビが26.0%、転倒が25.8%と若干少なくなっており、解説表の「補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる(補強済みのものはそう多くないと思われる)」という表現は少しオーバーかもしれない。ちなみに、階級表にない被害として注目されるのは、4割近くの家庭で「トイレ、風呂などの設備の具合が悪くなった」ということである。これは人的被害に

はつながらないが、地震後の避難所生活の質にかかわる被害である。

次に、建物の被害であるが、解説表では、木造家屋で「耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある」としている。今回の一連の地震による全地域を通じた全壊家屋は 1247 棟(消防庁調べ)であった。またこれを、震度 6 強を記録した 3 町でみると、全壊家屋は 3.9%にすぎなかった。震度階級関連解説表の記述と建物被害の実態が適合していないのではないかと、解説表は建物被害を過大に記述しているのではないかと、ということはいままでもしばしば指摘されてきた。

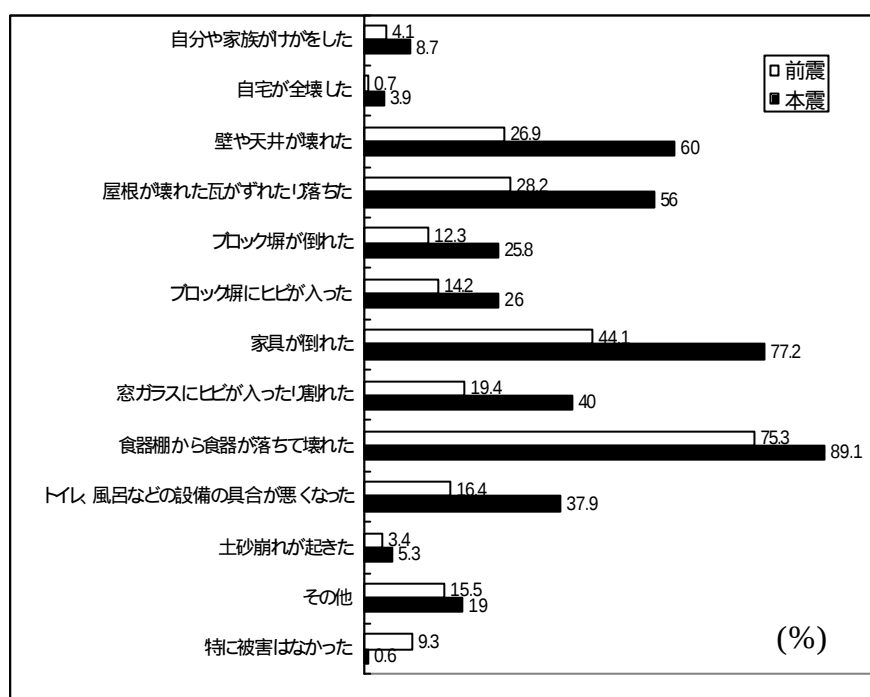


図 1 人的・物的被害

「震度階級関連解説表」が作成されてから発生した大地震といえ、まず 2000 年 10 月に発生した鳥取県西部地震があげられるが、このとき鳥取県境港市と日野町で震度 6 強を記録したほか、2 町で震度 6 弱、6 市町村で震度 5 強を記録したが、全壊家屋は 127 棟、半壊家屋は 724 棟にとどまった。また 2001 年 3 月に発生した芸予地震においても、広島県河内町、大崎町、熊野町が震度 6 弱を記録したほか、広島県、山口県、および愛媛県内の 49 市町村が震度 5 強を記録したが、全壊家屋は 14 棟、半壊家屋は 57 棟にすぎなかった。個人住宅の平均的な耐震性は地域によって大きく異なるし、耐震補強の割合も同じでないため断定はできないものの、震度の解説表と建物被害の関係については、精査してより適切なものにする必要があると思われる。

次に、ライフラインの被害としては、解説表には、「ガスを地域に送るための導管、水道

の配水施設に被害が発生することがある。一部の地域で停電する。広い地域でガス、水道の供給が停止することがある」とある。本調査の結果を見ると、58.4%の家庭で水道が止まり、52.6%で電気が止まっている。解説表とよく適合している。むしろ、停電は現実のほうがより広範に起きたともいえよう。一方、ガスが停止したのは13.6%と比較的少数であった。これはこの地域が都市ガスでなくプロパンであったことと関係があると思われる。またマイコンメーターがついているかいないかでもこの数字は変わってくるであろう。以上、解説表とライフラインの状況については若干検討の余地があるかもしれない。

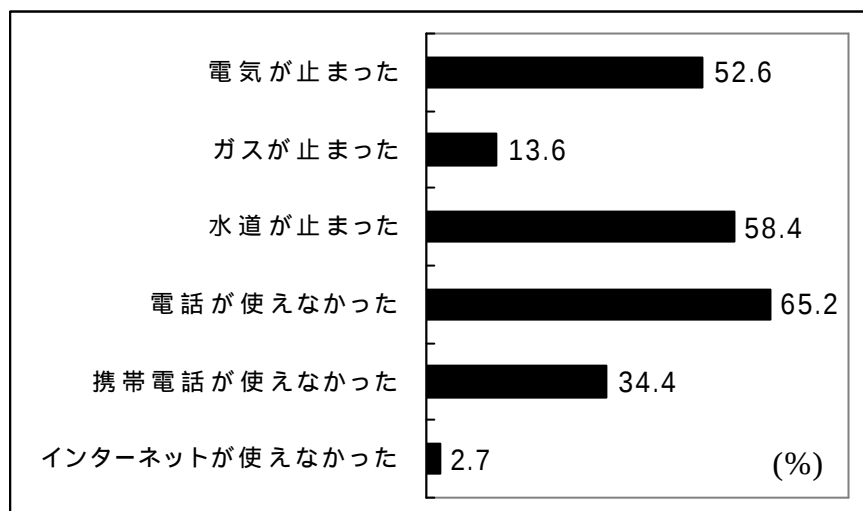


図2 ライフラインの被害

いままで、気象庁震度階級関連解説表の記述と、そのときの人間行動や実際の被害の関係について、調査結果を紹介してきた。ここで詳しく触れる余裕はないが、阪神・淡路大震災以前の震度階級は、震度の解説そのものが定義となっており、なかなか変更することが困難であった。しかし震災後、震度の定義は計測震度計に記録された数字の小数点以下を四捨五入したものとなって、解説は単なる解説にすぎないということになった。そのため、今後、地震と被害の関係がより明らかになった場合、あるいはわれわれを取り巻く社会状況に変化があった場合、柔軟に変更することができるようになり、現に、解説表の作成を検討した気象庁の「震度問題検討会」でも、そのような確認がなされている。

また、いうまでもなく、以上の考察はあくまでも今回の地震の揺れ（内陸型の地震で海溝型とは異なる）と被害を元にしたものである。同じ震度6強でも揺れ方や、地域の家屋やライフラインの耐震特性によって実際の被害は異なってくるに違いない。今後も被害地震が起こる度に解説表を点検し、早期に被害を予測する簡便な道具としてブラッシュアップしていくことが望まれる。

一方、調査対象者に、震度 6 強を体験して、その被害をどう感じたかをたずねた。調査前の予想としては、今回、震度 6 強の強い揺れに関わらず、幸いなことに死者はなく、倒壊家屋も少なめだったので、揺れの割に被害が少なかったと感じた人が多かったのではないか、と予想されたが、そういう感想は 20.0%と少なかった。逆に揺れの割に被害が大きかったと感じた人が 46.0%と半数近くになっていた。

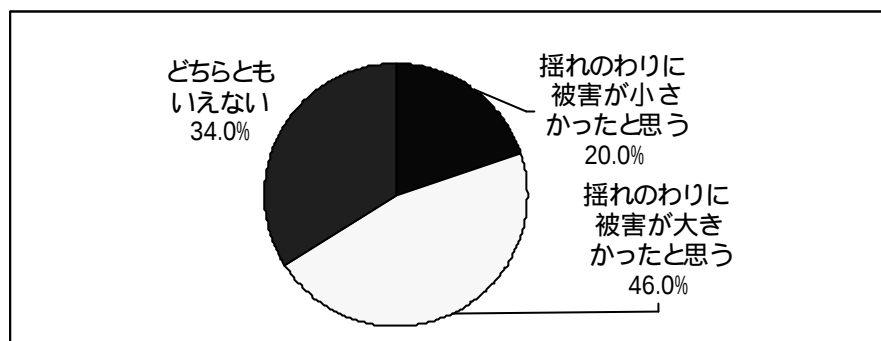


図 3 震度と被害の印象

さらに、今回の地震による被害を受けて、どのようなことに困ったかをたずねたところ、最も多かったのは「電話が使えなかったこと」であり、65.2%の人が回答していた。次いで、「水道が止まった」が 58.4%、「電気が止まった」が 52.6%など、ライフラインの途絶をあげた人が多かった。

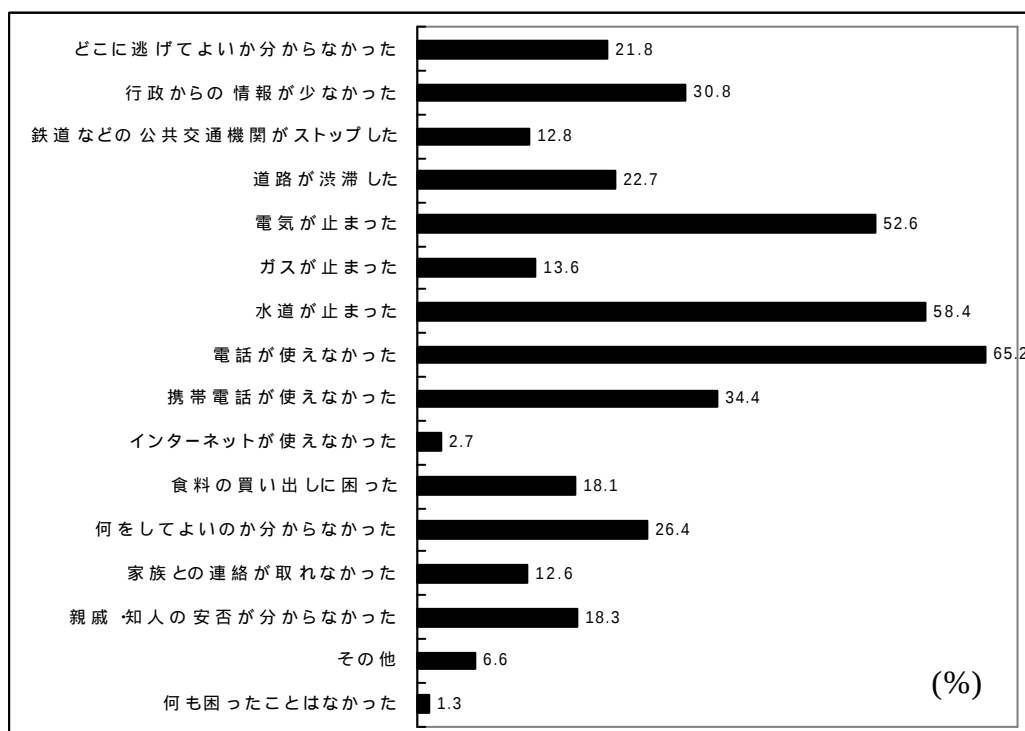


図 4 地震で困ったこと(複数回答)

4 住民の行動

震度が5強ないし6弱の一度目の地震（前震）では、地震が起こったのが深夜だったにもかかわらず、地震時のとっさの行動として「戸、窓などを開けた」という人が33.5%と最も多かった。安全を確保する行動の余裕があった人が少なかったのである。

しかし、震度6強を記録した2度目の地震（本震）では「ほとんど動けなかった」という人が46.1%と最も多かった。震度6強となると、揺れの激しさから、なかなか行動が自由にならなかったのであろう。一方、この2度目の地震でも、「火の始末をしたり、ガスの元栓を締めた」人が30.9%もあり、適切な行動をした人も少なかった。もっともこの数字は、本震時は朝7時と、朝食の準備で火を使っていた人が多かったせいかもしれない。

ところで、揺れのどの段階で火の始末したか、というその時期であるが、午前7時13分の本震では43.4%の人が揺れはじめのときに消している。0時13分の前震では29.9%だったので、これとくらべると、1度目の地震で敏感になっていたために、揺れの激しさにもかかわらず、適切な行動をとった人が多かったといえるだろう。実際、別の質問の中で、1回目の地震が2回目の地震の被害を軽減させたか、とたずねたところ、43.0%の人が「敏感になっていたので、適切な対応ができた」（図7）と回答している。

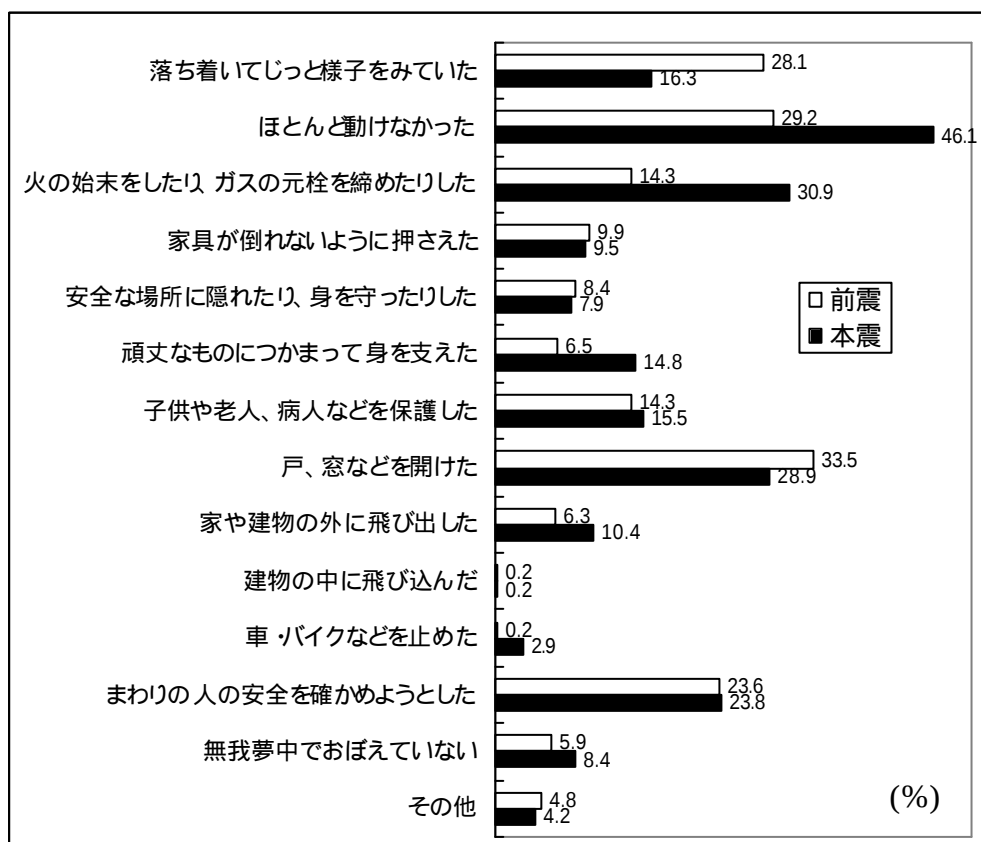


図5 地震直後のとっさの行動

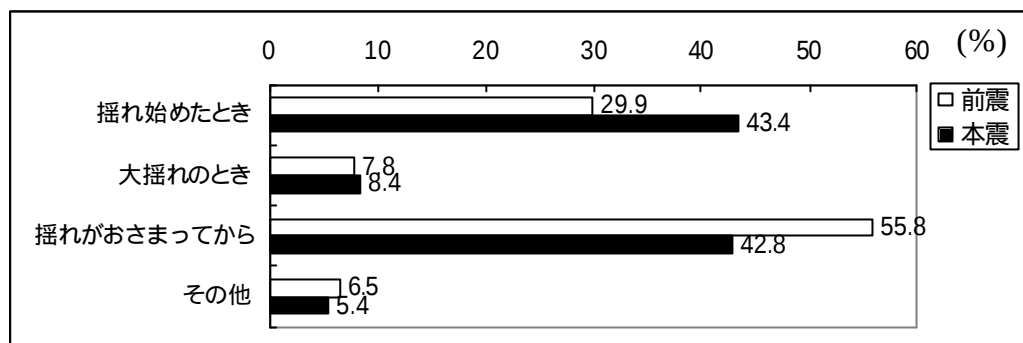


図 6 火の始末の時期

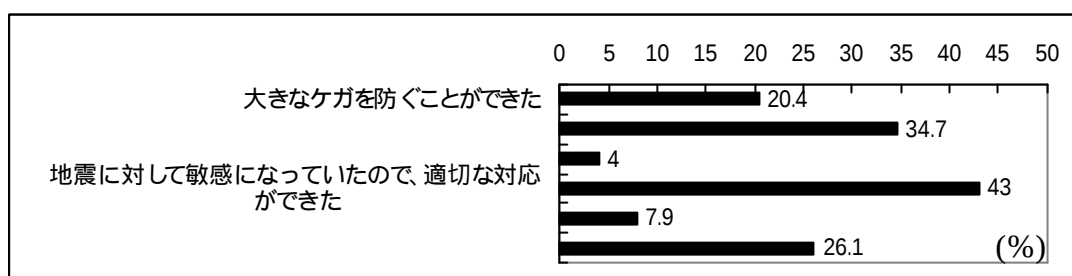


図 7 前震が本震の被害を少なくしたか

次に、地震の後、家から他の場所へ避難したかをたずねたところ、前震では 10.2%、本震では 27.5%と、かなりの人が避難していた。避難の理由として、図 1、図 2 から考えられるのは、家の全壊は少なかったが、壁・天井の破損といった家の一部損壊や、電気や水道といったライフラインの途絶が大きかったので、そのためではないかと思われる。

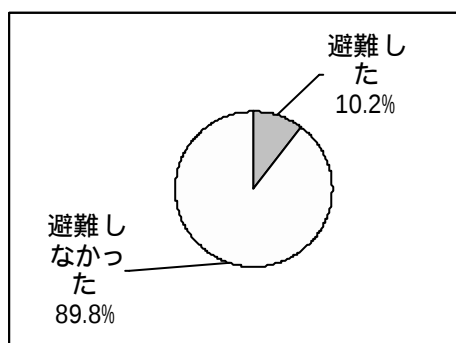


図 8 避難行動(前震)

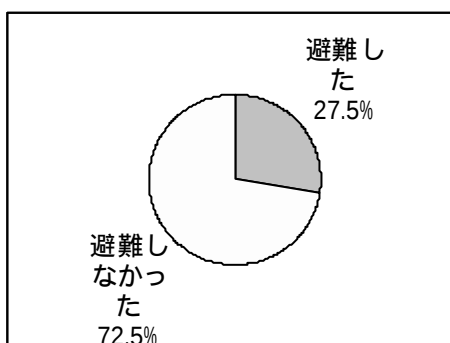


図 9 避難行動(本震)

5 通信行動 ― 激しい通信輻輳

図4で述べたように、今回の地震で困ったこととして住民が最も多くあげたのは「電話が使えなかった」であった。

そこで具体的に電話の疎通程度をたずねてみると、固定電話が「全く利用できなかった」人が46.3%、携帯電話の音声がつながらなかった人は36.3%であった。一方、「すぐにつながった」人はそれぞれ11.8%と10.2%で、全くつながらない人がすぐにつながった人の4倍程度になっている。

すぐにつながった人をみると携帯電話がもっともつながりにくいが、全くつながらなかった人をみると固定電話のほうが疎通が悪い。最近の地震では携帯電話が最も疎通が悪くなっているが、今回は固定も悪いという点が少し異なる。これは農村部の特徴なのだろうか。一方公衆電話と携帯メールでは、すぐにつながった人がそれぞれ31.0%、23.4%と、固定電話や携帯音声よりは、つながりやすかった。

通信会社によると、今回の地震では 固定電話では宮城県県外から県内への通話需要が通常時の8倍、県内同士の需要が9倍程度になり、県内向けの通話を最大60%規制したという。また携帯電話では、最大で、ドコモが75%、Jフォンが50%、AUが85%の規制を行ったということである。

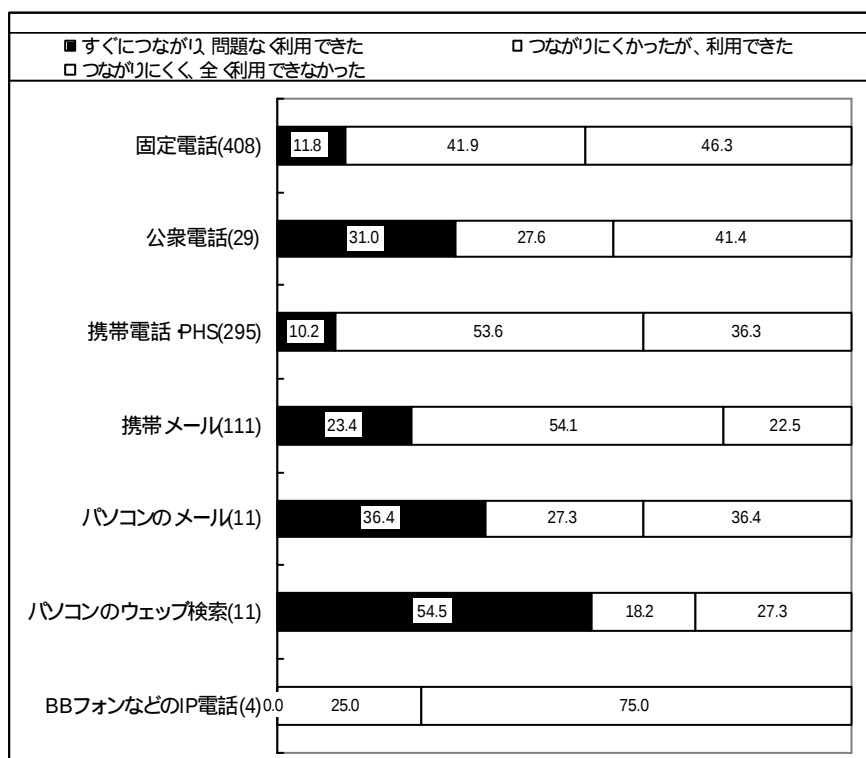


図 10 各通信メディアの疎通状況(%)

災害時の輻輳対策としては、阪神・淡路大震災後、固定電話において「災害用伝言ダイヤル」がつけられた。このシステムはすでに十数回にわたって発動しており、今回の地震でも、NTT東日本によると3万8600件(登録9300、再生2万9300件)の利用があったという。しかし、本調査によると利用した人は1.1%と少なかった。

今回の災害では、地震直後のNHKテレビを録画して、電話関連の報道をみたところ、NTTでは、本震が発生した午前7時13分から47分後の午前8時に伝言ダイヤルの運

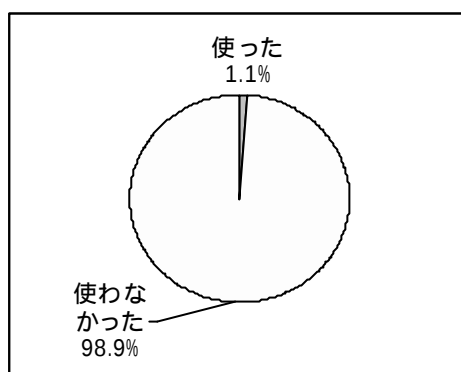


図 11 災害用伝言ダイヤルを利用したか

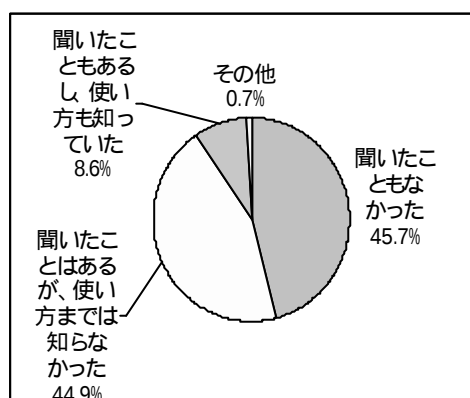


図 12 地震前の災害用伝言ダイヤル認知度

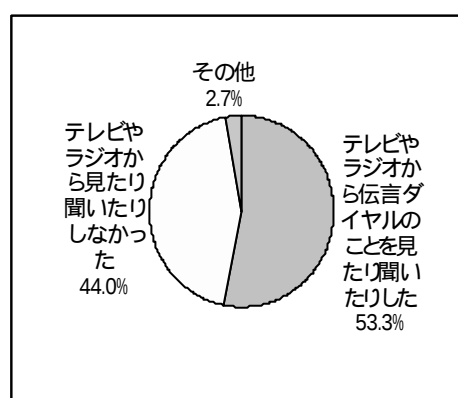


図 13 地震後の接触

用を開始したが、その33分後の午前8時33分に伝言ダイヤル運用開始の報道がなされている。5月の宮城県沖の地震の時には、運用開始から117分後に放送されていたから、ずいぶん改善されている。

また、同じ内容を午前8時38分、午前9時11分の2回繰り返した後、午前9時28分には図入りで1分以上にわたって利用方法を説明しており、5月の宮城県沖の地震の時は1回だけだったことを考えると量的にも充実していた。

さらに、他の面でも電話についての報道は改善されている。たとえば、電話を控えるよ

うにという自主的な呼びかけも午前 8 時 8 分、午前 8 時 33 分、午前 9 時 28 分の 3 回行っている(宮城県沖の時は 0 回)。こうした改善は望ましいことである。ただ奇妙なことに改善されたのは N T T 東日本関係の情報ばかりであった。今後は、携帯電話関係の情報についても報道されることが望まれる。

表 1 電話関連のテレビ報道 (NHK・東京 午前 7 時 13 分 - 午前 10 時)

7:14	仙台局からの中継中、地震発生 「仙台のスタジオです。今も比較的大きな揺れを感じました。仙台市内にあります NHK 仙台放送局のスタジオでもたった今も非常に大きな揺れを感じました。情報が入り次第お伝えします。かりに地震の震源が海底ですと津波のおそれがあります。海沿いの方は念のため津波に警戒してください。←」落ちてくる物や倒れてくる物に注意してください。(繰り返し)新しい情報が入りました。この地震による津波の心配はありません。				
7:16	震度 6 強の情報でチャイムがなり東京からの画面に				
7:17	土砂災害への注意の呼びかけ				
7:24	松島町役場との電話中継				
7:32	鳴瀬町役場との電話中継				
7:37	松山町役場との電話中継				
7:45	矢本消防との電話中継 町内停電しているが 119 番は通じている				
7:51	米山町との電話中継				
8:01	(仙台のスタジオから)引き続きライフラインに関する情報をお伝えします。NTT 東日本宮城支店によりますと、震度 6 強を観測した南郷町など地震の強い揺れを観測した地域への電話が地震直後から通じにくくなっています。現在電話線が切れるなど設備の被害が出ているかどうか点検作業を進めているということです。←」				
8:02	矢本町役場との電話中継 町内停電中という報告に対して 119 番等電話は通じているかとアナウンサーが追求				
8:08	NTT からの情報「←」を繰り返したあと「電話は通じにくい状況になっています。どうぞ緊急の場合をのぞいて電話の利用はお避けください。」				
8:10	鳴瀬町役場との電話中継				
8:11	南郷町役場との電話中継				
8:15-30	連続ドラマ「こころ」				
8:33	「NTT 東日本によりますと、電話が殺到し宮城県内でかかりにくい状況が続いております。このため NTT では宮城県外からかかってくる電話を規制しています。NTT では災害伝言ダイヤル 171 番を午前 8 時に設置しました。安否などの確認に役立ててほしいとしています。←」宮城県内では電話がかかりにくい状況が続いている。緊急の電話が通じなくなりますので緊急以外の通話は避けてください。←」を繰り返し				
8:38	(仙台のスタジオから) 繰り返し				
8:43	南郷町役場との電話中継				
8:45	松山町役場との電話中継				
8:47	鳴瀬町役場との電話中継				
9:11	伝言ダイヤル起動「←」繰り返し				
9:19	米山町役場との電話中継				
9:23	松山町役場との電話中継				
9:28	災害用伝言ダイヤル利用法説明 (図入り 1 分 25 秒間) 「伝言を録音して家族や知人に安否を知らせる災害用伝言ダイヤルを NTT 東日本が始めています。宮城県内の被災地の方がまず伝言を登録する方法です。登録する場合にはまず 171 をダイヤルして案内に従って 1 をダイヤルします。そして自分の番号をダイヤルしてから伝言を録音してください。1 回につき 30 秒までメッセージを残すことができます。またほかの地域からそれぞれの方の安否を知りたい方が伝言を聞くには、同じ 171 をダイヤルした後 2 をダイヤルして続けて連絡を取りたい相手の電話番号を入力します。そうすると録音が入っている場合には伝言を聞くことができるということです。災害地では防災や救助の連絡用に電話が必要です。緊急時以外はなるべく電話の使用は避けてください。そのかわりに災害伝言ダイヤルが利用できます。」				
災害用伝言ダイヤル <table style="margin: auto;"> <tr> <td>宮城県内の住民</td> <td>171 → 「1」 → 電話番号入 → 30 秒メッセージ</td> </tr> <tr> <td>安否知りたい人</td> <td>171 → 「2」 → 相手の電話番号入力</td> </tr> </table>		宮城県内の住民	171 → 「1」 → 電話番号入 → 30 秒メッセージ	安否知りたい人	171 → 「2」 → 相手の電話番号入力
宮城県内の住民	171 → 「1」 → 電話番号入 → 30 秒メッセージ				
安否知りたい人	171 → 「2」 → 相手の電話番号入力				
9:30 ~	大リーグ中継 (逆 L 地スーパーで震度、津波なし、交通情報、人的被害を流す)				

一方、携帯電話にはこれまで、一般利用者が利用できる災害時の輻輳対策がなかったが、5月の宮城県沖の地震および7月の宮城県北部地震の経験を踏まえて、NTTドコモでは2004年から以下の対策を実施する予定である。

すなわち、第一は「iモード災害用伝言板サービス」という、ウェブ版の災害用伝言ダイヤルの開始である。被災地の利用者がiモード画面から安否を登録することで、知り合いがそのメッセージを確認することができる。第二は、携帯メール（パケット通信）の通信規制を音声と独立させて行うことで、携帯メールの疎通を改善する試みである。第三は、携帯電話が輻輳しているときに、NTTの「災害用伝言ダイヤル」や「iモード災害用伝言板サービス」の利用を呼びかける、音声ガイダンスを流すことである。

携帯電話の普及は目覚ましいものがあり、8000万台に近づこうという勢い（固定電話の1.5倍）である。携帯電話はいまやきわめて重要なインフラストラクチャであり、上記のような試みは遅きに失した感もあるが、社会的に有意義なものである。しかも、パケット通信は輻輳に比較的強いという長所もあり、災害時には有効に機能する可能性が高いと思われる。

6 情報ニーズと放送への評価 — 余震情報ニーズ・通信ニーズが高かった

この地震で、住民はどのような情報を求めたのだろうか。

本震直後に知りたかった情報について質問したところ、最も回答が多かったものは、「今後の余震の可能性やその規模」（86.1%）で、以下、「今回の地震についての震源地や規模などの情報」（68.6%）、「自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報」（60.9%）、「道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報」（52.5%）の順だった（図14）。

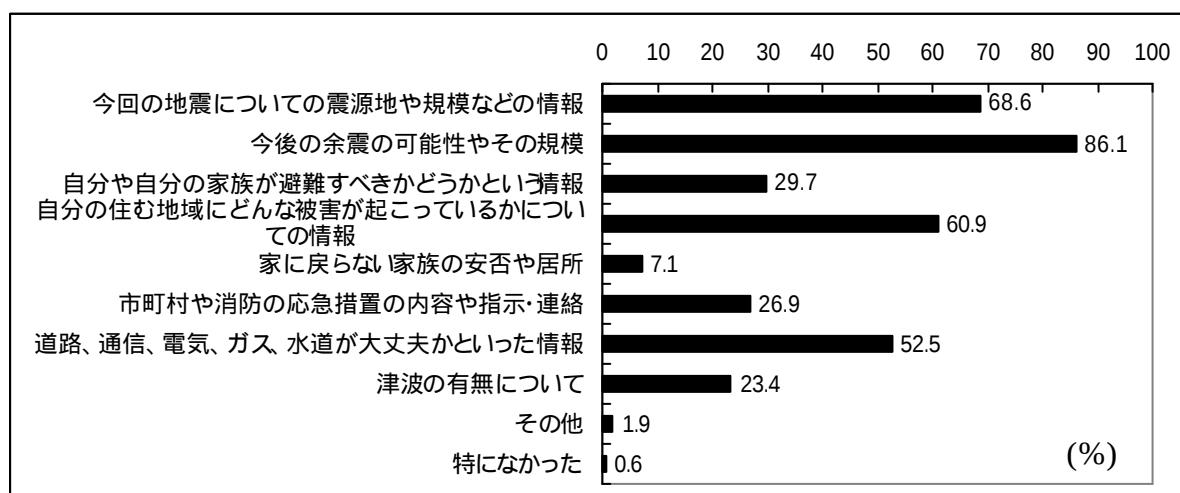


図14 本震直後の情報ニーズ

この結果を、この地震の２ヶ月前に発生した宮城県沖の地震（５月２６日）における情報ニーズと比較したところ（表２）「今回の地震についての震源地や規模などの情報」を回答した人の割合は同じだったが、宮城県沖の地震で 69.0% を占めていた「津波に関する情報」が、今回の地震では 23.4% であった（ただし今回の質問文は「津波の有無」）。

一方、宮城県沖の地震で 61.2% を占めた「今後の余震の可能性やその規模」については、今回は 86.1% と割合が非常に高くなっている。これは、「大きな地震の後には、その地震よりも規模が小さい余震が発生する」というパターンの地震が一般的には多く経験しているが、今回の地震は、「大きな地震のあと、さらに大きな地震が発生する」という「前震—本震」という、一般の人々にとっては珍しいパターンの地震であったことが原因として考えられる。午前 0 時 13 分に発生した地震（前震）でも相当強い揺れを感じていたにもかかわらず、7 時 13 分に発生した地震（本震）は規模が上まわり、揺れの強さも強かった地域が多かったため、その後の地震活動に不安を感じる人が少なくなかったと思われる。このようなことが、余震に関する情報ニーズを高めた理由ではないだろうか。

また、「自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報」や「市町村や消防の応急措置の内容や指示・連絡」といった、各自の意思決定や地域の対応に関する情報ニーズをあげた人の割合が比較的高いことも、人々が、また大きな地震が発生することへの不安を感じていたことを裏付けているのではないだろうか。

他方、今回の地震では、「自分の住む地域にどんな被害が起きているかについての情報」や「道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報」といった被害に関する情報ニーズを回答した人の割合が比較的大きかった。

表２ 情報ニーズの比較〔M.A.〕（％）

	宮城県北部 7 月 26 日	宮城県沖 5 月 26 日 (N=810)
今回の地震についての震源地や規模などの情報	68.6	68.6
今後の余震の可能性やその規模	86.1	61.2
自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報	29.7	27.5
自分の住む地域にどんな被害が起きているかについての情報	60.9	43.2
家に戻らない家族の安否や居所	7.1	30.5
市町村や消防の応急措置の内容や指示・連絡	26.9	17.9
道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	52.5	43.6
津波の有無について（津波に関する情報）	23.4	69.0
その他	1.9	0.6
特になかった	0.6	5.7

次に、今回の地震に関する放送への評価である（図 15）。この結果をみると、「余震に関

する情報をもっと伝えてほしかった」と回答した人が最も多く、67.2%を占めていた。この回答の状況からも、余震への情報ニーズが高かったことがうかがえる。

この結果について、宮城県沖の地震における調査結果と比較したところ（表 3）、「具体的な行動や対応についての情報をもっと伝えてほしかった」という行動指示情報へのニーズや「住んでいる地域の震度や被害状況をもっと多く伝えてほしかった」や「電気やガスの状況をもっと詳しく伝えてほしかった」といった被害やライフラインの復旧情報へのニーズが比較的高いことがわかる。

また、数値の上では割合がやや小さくなっているが、「電話や携帯電話のつながり具合をもっと詳しく伝えてほしかった」という電話に関する情報のニーズをあげた人も3割を占めている。これは、災害時には、地域に関係なく電話に関する情報を求める人が多いことを示しているものと思われる。

今回の一連の地震では、大きな前震のあとにもっと大きな本震が襲ったこともあって、本震の直後、住民が最も知りたかった情報は「今後の余震の可能性やその規模」（86.1%）であった。次いで多かったのは、「今回の地震についての震源地や規模などの情報」であり、これもある意味で当然であるが、情報ニーズとして、「自分の住む地域にどんな被害が起きているかについての情報」をあげた人が60.9%と多かったことも、注目される。激しい揺れを経験した県北部地域は、放送局のある仙台市から離れていたために、放送局の取材がきめ細かく行われなかった、と住民が感じていたことがその理由のひとつであろう。

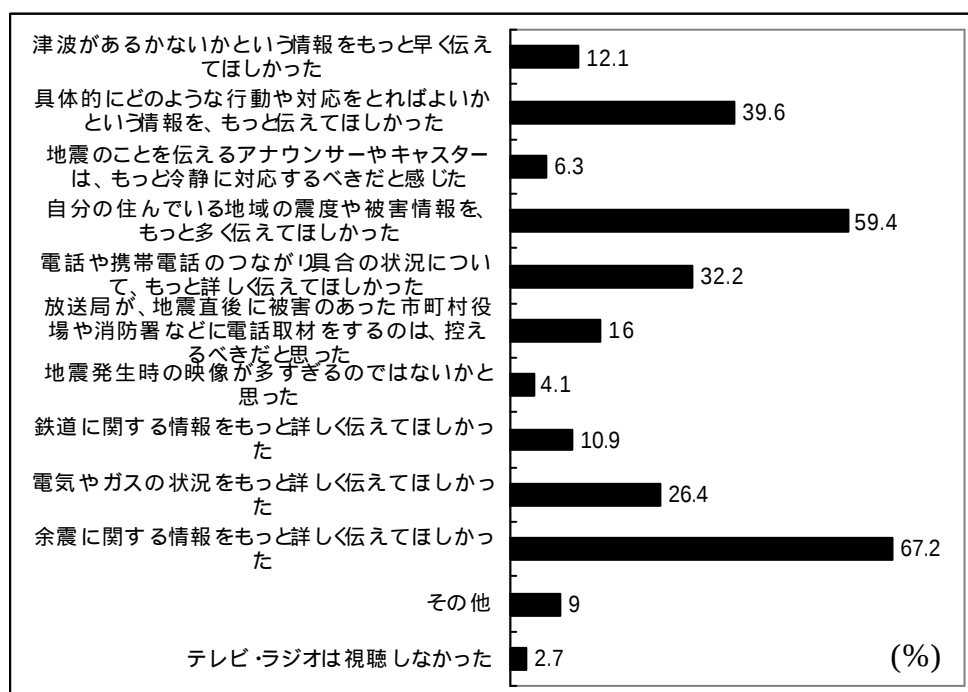


図 15 放送への評価〔M.A.〕(%)

表 3 「放送への評価」の比較〔M.A.〕(%)

	宮城県北部 7 月 26 日 (N=550)	宮城県沖 5 月 26 日 (N=810)
津波があるかないかという情報をもっと早く伝えてほしかった	12.1	49.1
具体的な行動や対応についての情報をもっと伝えてほしかった	39.6	25.3
地震を伝えるアナウンサーはもっと冷静に対応するべきだと感じた	6.3	5.6
住んでいる地域の震度や被害状況をもっと多く伝えてほしかった	59.4	44.4
電話や携帯電話のつながり具合をもっと詳しく伝えてほしかった	32.2	35.9
放送局が直後に役場等に電話取材をするのは控えるべきだと思った	16.0	13.0
地震発生時の映像が多すぎるのではないかと思った	4.1	8.8
鉄道に関する情報をもっと詳しく伝えてほしかった	10.9	14.3
電気やガスの状況をもっと詳しく伝えてほしかった	26.4	16.5
余震に関する情報をもっと詳しく伝えてほしかった	67.2	45.7
その他	9.0	10.0
地震の後、テレビ・ラジオは見聞きしなかった	2.7	1.0

7 余震情報への態度 — 半数以上の人、「余震発生確率は低い」

今回の地震では、気象庁は 26 日午前 0 時 13 分の前震以降、何度か余震情報を発表している。本調査では、そのうち、午前 7 時 13 分の本震直後の午前 9 時の発表についてたずねた。その余震情報の内容は、「今日 9 時から 24 時間以内に M (マグニチュード) 5.5 以上の余震 (最大震度 6 弱程度) の発生する確率は約 10% 未満、M5.0 の余震 (最大震度 5 強程度) の発生する確率は約 20%、M4.5 以上の余震 (最大震度 5 弱程度) の発生する確率は約 40% です」というものであった。この発表は、住民の余震情報ニーズへの高さも反映して、70.9% と多くの人を知っていた。

そして実際、午後 4 時 56 分に M5.3 (最大震度 6 弱) という大きな余震が発生したわけだが、前記の大きな余震が「発生する確率は 10% 未満」という発表についてどう思っていたかをたずねたところ、51.7% と、半数以上の人、発生確率は低いと感じていたことがわかった。

気象庁では、26 日夜の余震後にも最大震度 5 強程度の地震が起きる確率は 10% 未満と発表しており、『余震の確率予測 2 度とも大外れ』(読売新聞 7 月 27 日) とマスコミで書きたてられることになった。

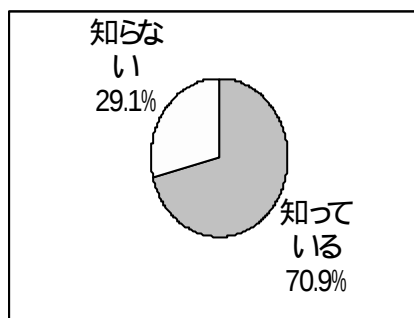


図 16 余震確率の発表について

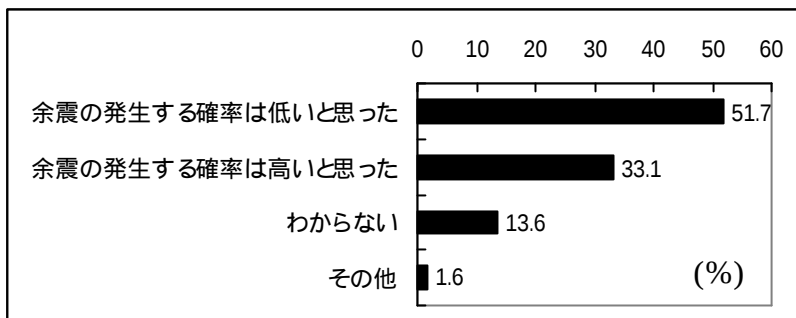


図 17 大きな余震が「発生する確率は 10% 未満」と聞いて

前震後の「10% 未満」という予測は、今回の地震が前震 - 本震という、比較的まれなパターンであったために、結果としてその予測は困難であったといえる。しかし本震後に発表された余震情報は、震度では 10% 未満の領域に入るものの、マグニチュードでは 20% 程度の確率の中に入っており、「大外れ」とはいえないかもしれない。しかし住民の日常的感覚からすれば、10% とか 20% という確率はそれほど高くないというのがふつうであり、確率というような定量的な表現だけでなく、10%、20% という数字は決して低いとはいえないということを、情報の中に負荷する必要があるのではないか、と思われる。

しかし、本調査において、余震確率の発表方法についてたずねたところ、約 6 割(58.0%)の人が「今まで通りの形で発表してほしい」と答え、約 3 割(31.9%)が「数値での発表はわかりにくいので、別の表現で発表してほしい」と回答した。この結果も、いままで通り数値発表は続けながらも、それを補足する説明をつけ加えるなど、発表方法に何らかの改善をする必要があることを示唆している。

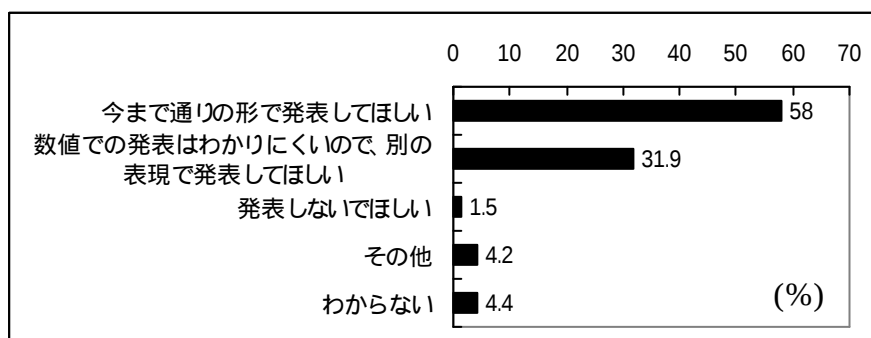


図 18 余震確率の発表について

8 地震の連続と地震対策 ― 震度 6 強を体験して初めて進む地震対策

今回の地震の被災地域の多くは 5 月 26 日の宮城県沖を震源とする地震でも震度 5 強程度の揺れを記録しており、住民は、強い揺れを 2 ヶ月の間に 2 度体験したことになる。

調査結果によれば、5 月の地震を体験して、40.1%の人がまた大きな地震がくると考えていた。これは、近い将来その発生が心配されている「宮城県沖地震」を念頭においたものと考えられる。

しかし、このような懸念が住民の地震対策に反映されたかという点、ある程度反映されたとは言えるものの決して十分とはいえない。調査結果を見ると、5 月 26 日の地震を経験し、将来の地震に備えて何らかの防災対策を行った住民は 3 割（31.9%）にとどまっていた。そのおもな内容は、家具の固定(50.9%)と「家の中の物の落下対策」(50.3%)であった（数字は対策をとった人の内訳）。宮城県沖地震の発生確率がきわめて高いと言われているわりには、5 月 26 日の地震で対策が飛躍的に進んだとはいえない。

一方、7 月 26 日の地震をきっかけにして実施した地震対策をたずねたところ、家の中の危険物の落下防止対策が 67.4%、家具の固定 61.9%と格段に実施率が高まっていた。これは大変興味深い数字である。ここには度重なる地震による効果があり、いよいよ問題の宮城県沖地震の発生が近づいてきたという切迫感が感じられる。いままで、宮城県沖地震が近いといわれながらも、あまり地震対策に積極的でなかった人々が、度重なる大地震を体験してようやく地震対策に本腰を入れはじめたのである。今後は、この意識をいかに維持・発展させていけるかが課題になるであろう。

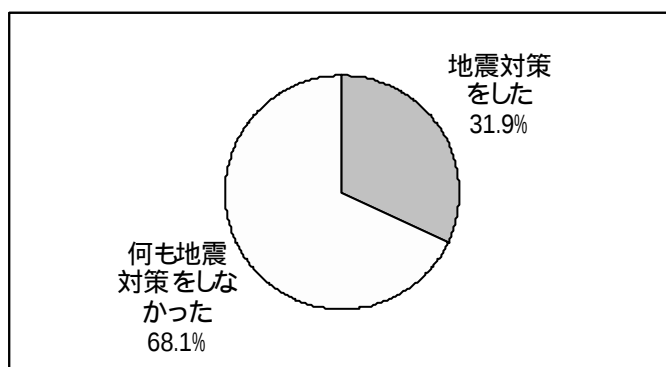


図 19 5 月の地震で対策をしたか

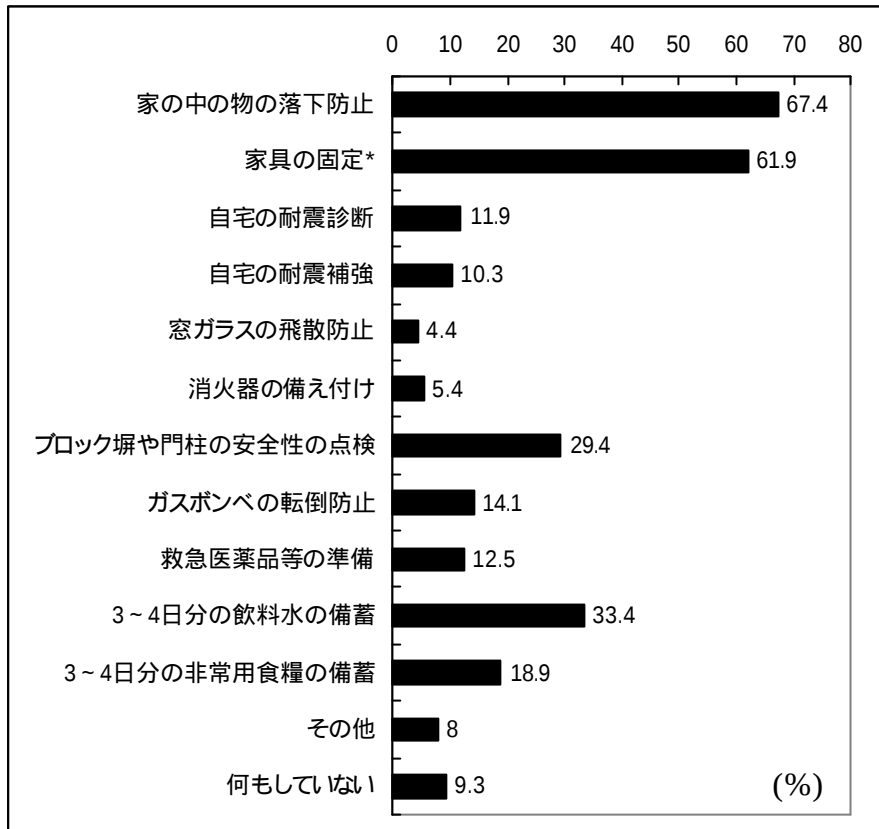


図 20 7月の地震後にしたハード面の対策（全体）

*別問における「家具の固定」を合計したもの

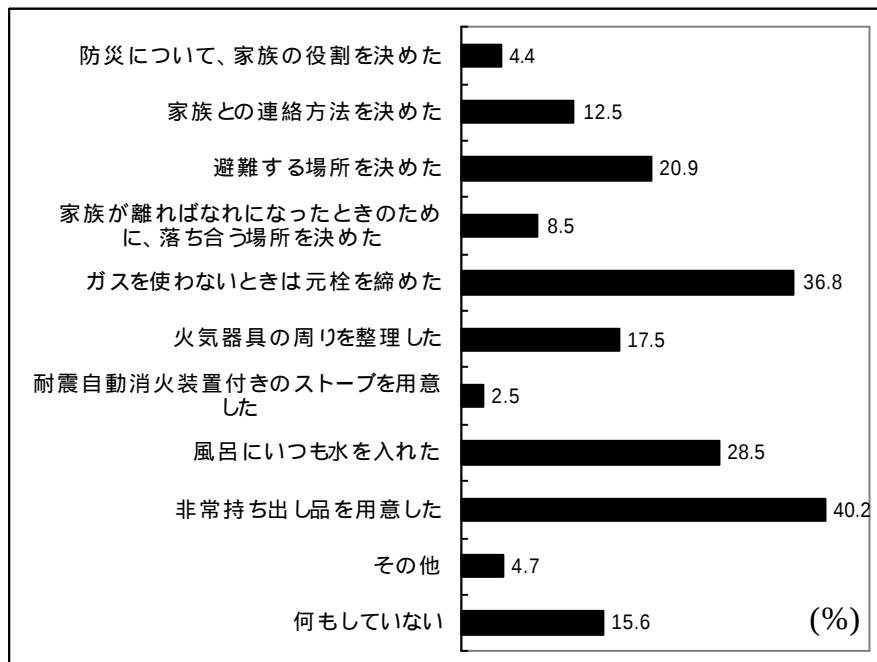


図 21 7月の地震後に行ったソフト面の対策

9 自治体の対応と課題 — 小さくなかったマスコミの取材・報道被害

次に、今回の地震によって被災した自治体の対応と課題を知るために、震度 6 強を観測した 3 町(矢本町、南郷町、鳴瀬町)に聞き取り調査を行った。アンケート調査と同じ地域である。聞き取りはそれぞれの総務課に対して実施した。

まず、災害後の対応だが、各町には同報無線があり、それが有効に活用されていた。たとえば、矢本町ではほぼ全世帯に当たる 9700 世帯に戸別受信機を設置している。町内では本震直後 1 時間ほど停電したが、バックアップ電源があり、同報無線は正常に稼働した。戸別の住宅のバックアップ電池の状況はわからないが、電話も通じにくい状況で、同報無線は大変役に立ったという。放送内容は、地震直後は余震に注意、土砂崩れの注意などであり、しばらくしてからは、自宅の屋根からの転落に注意、通電火災に注意(これは県から教えてもらった)、さらに時間がたってからは、がれき処理の方法や場所、各種相談窓口のしらせなどであった。避難勧告は出していないのでその放送はなかった。

また、南郷町では屋外拡声器型の同報無線があり、地震直後職員の招集などに使ったが、震度 6 以上は自動的に参集することになっていたもので、これはあまり意味がなかったという。そのほか避難場所の開設など、住民への知らせに活用している。なお南郷町でも避難勧告はしていないのでその放送はなかった。

一方、鳴瀬町でも屋外拡声器型の同報無線があり、同様な活用を行っている。3 町では矢本町だけに戸別同報があり、「お知らせ」的な細かい情報も流せたようである。

深刻だったのは、各町ともマスコミの取材被害であった。具体的には、マスコミからの電話の殺到で、役場の電話がふさがれ、町民や外部の職員からの電話がつながらなくなるとか、マスコミ対応に役場の人的資源がさかれてしまうなどの点が問題となった。

たとえば矢本町では、地震後 30 分から 1 時間後まで、報道各社から被害状況の問い合わせが殺到した。総務課の電話は 40 台あったがそれがすべて鳴りっぱなしとなった。防災担当の職員がそれにかかりきりになり、防災担当者が、今後役場としてどういう体制でやっていくかというアドバイスをすることが全くできなかった。中継などのために記者たちが電話をなかなか切ってくれず、わざと長引かせるのには大変困惑したという。

また鳴瀬町でも取材攻勢は激しく、前震の後、午前 3 時ぐらいまで町民が役場に電話しても、マスコミの電話のために全くつながらない状態だったという。課に 7 本ある電話が全部マスコミによって占領されてしまい、職員同士は携帯電話で連絡を取り合ったという。

同様に、南郷町でも報道が行政の障害となった。記者の質問に対して答えを用意せねばならず、それに人的資源がさかれた。地震直後は住民対応より、報道対応に時間をとられてしまった。記者用に状況を示す白板とか控え室を用意したので、電話でなく、実際に町

まで来て、そこから内容を自分たちで報告してほしい、とある職員はいう。インタビューに訪問したのは8月5日であったが、役場には「報道関係の皆様 この先の立ち入りご遠慮願います」「報道関係の皆様へ 被害状況についてはホワイトボードをご覧ください。その他の情報については把握しだいお知らせします。」などの張り紙があり、報道被害の跡を物語っていた(図 22)。

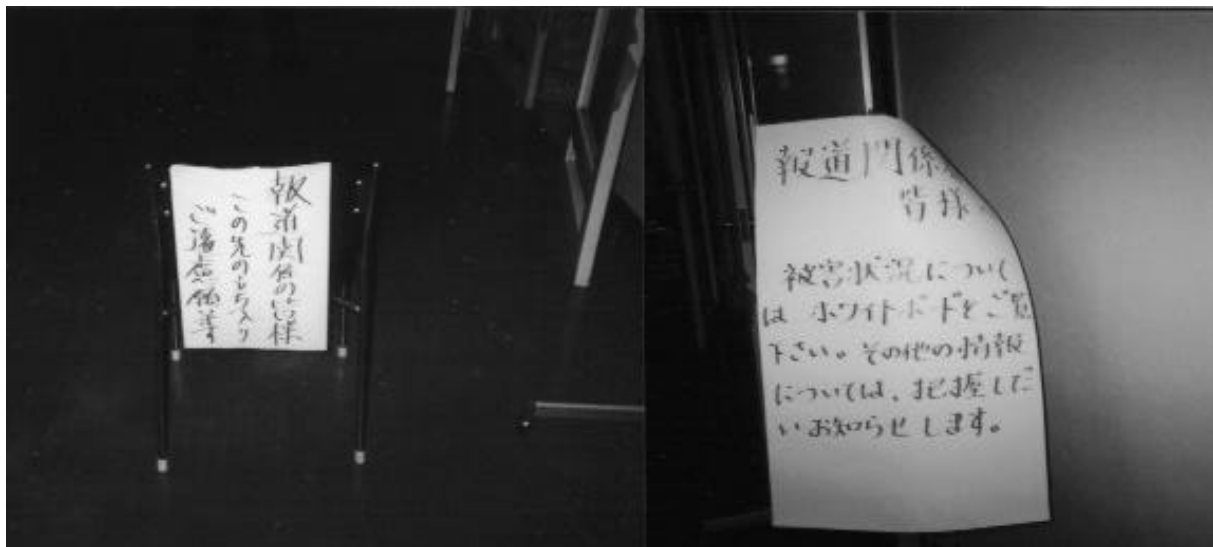


図 22 報道被害を物語る張り紙(南郷町役場)

今回の被災地は取材に行きにくい場所だったために電話取材に頼らざるを得なかったこと、あるいはいったんつながった電話は切らないというのが取材上の鉄則であることなどを勘案しても、取材が防災活動を妨害するのは望ましくない。とくに、電話による役場からの中継(トーク・イン)は臨場感を出すという演出上の効果に優れていても、防災上は避けなければならない行為である。記者が現状を取材した後に、改めてアナウンサーが聞くために2重取材となるうえに、中継まで担当者が電話を切れず待たされるからである。また、電話中継の対象者のほとんどが総務課長など防災活動の中心人物であるため、防災体制の構築にあたっても大きな障害になってしまう。

こうした視点から、当日のNHK放送(表1)をもう一度見ると、電話取材の多さが放送上からも確認できる。すなわち午前7時24分の松島町役場との電話中継に始まり、午前7時32分鳴瀬町、午前7時37分松山町、午前7時45分矢本消防、午前7時51分米山町、午前8時02分矢本町、午前8時10分鳴瀬町、午前8時11分南郷町、午前8時43分南郷町、午前8時45分松山町、午前8時47分鳴瀬町、午前9時19分米山町、午前9時23分松山町と立て続けに、そして繰り返し、役場に対する電話中継を行っていた。放送による役場への電話取材は、地震による被害状況や行政の対応について視聴者に情報を与えるという意味で、重要なものではあるが、それも程度の問題で、それほど時間的間隔を置か

ないでの取材は、現場の防災活動の大きな障害となるので慎重に行うべきであろう。

一方、町側としても、地震直後のクリティカルな時期に、町がまず何をなすべきかの優先順位をつける必要がある。津波警報の周知、危険な状況の把握、避難勧告、災害対策本部の設置、防災要員の掌握と配置、などが初動としてはもっとも重要なのではないか。マスコミ対応や細かい被害状況の集計などは第一になすべき事とは思えない。人的資源を確保するために、マスコミ対応は専従の担当者を決め、その人に限定したり、最繁時には電話取材は共同取材にしてもらい、などの対応をとらざるをえないのではないか。その上で住民からの被害情報をどう確保するかを考えるべきであろう。

また、各町が困ったことにがれきの処理の問題があった。

たとえば、矢本町では大量に発生したゴミの処理に困っている上に、指定した処理場に町外からもどさくさまぎれに業者がゴミを捨てにきたこともあり、問題がさらに大きくなっていた。その一方、南郷町では、がれきの分別により問題を解決していた。すなわち木、アルミ、鉄、ガラスなど分別して集めるようにしたのである。ゴミは住民が指定されたゴミ置き場(学校のグラウンドなど)に自分の責任で持ち込み、そこにいる職員の指示で分別して山積みされた。分別することで資源ゴミは業者が無料で持っていってくれるし、木材などは塩竈市が引き取りにきてくれ、塩竈市の焼却施設で燃やされた。水害時のがれきは汚物が絡まり分別不能だが、地震のゴミは分別できるので、迅速な処理が可能であるという。がれきの分別は今後の参考になる方法といえよう。

10 放送局の対応と課題

2003年7月26日に発生した宮城県北部地震について、NHK仙台放送局と、宮城県の先住民放局で唯一のラジオ・テレビ兼営局でもある東北放送(TBC)に、2003年8月6日、聞き取り調査を実施した。

本文でも触れたように、宮城県北部地震の特徴は

-
1. 1日にほぼ同一の場所で震度6の地震が3回続いた。
 2. 本震と思われた震度6弱の地震の後に震度6強の本震が発生した。
 3. 震源の深さがいずれも約12キロと浅く、狭い地域の直下型地震だった。
 4. 最大震度6強を観測した3町の人口は合わせて約5万人の農村部だった。
 5. 地震の揺れが大きな割には比較的被害が小さく、死者が出なかった。
 6. 震度6弱を記録した「宮城県沖の地震」の2ヶ月後の地震だった。
 7. 宮城県沖地震が懸念されている中での地震だった。
-

地震の規模にもよるが、地震時の放送局の一般的な対応は、簡単にいうと、スタジオ生や字幕スーパーによる地震発生の一報と、住民(視聴者)への注意喚起、その後、気象庁などから入ってくる各地の震度や地震の規模と震源地、津波の有無などをくり返す。その

間、天気カメラによる揺れの模様や局内据付カメラで捉えた局内の様子を見せる。並行して役場、消防、警察などに電話し、集めた被害状況を放送にのせる。また、鉄道・道路・空路など交通機関、電気・ガス・水道・通信などライフラインの情報も取材し逐次放送していく。そして、被災現場や主要駅などに記者を出し状況をレポート、専門家の顔出しやコメント、被災住民の声など、となる。

では、今回の地震で放送局はどのように対応したのか。

まず、NHK 仙台放送局の対応について述べると、最初の午前 0 時 13 分の地震は、定時の全国ニュースの時間に発生し、地震の一報は自動的に東京からニュースの上に字幕スーパーで入った。そして、地震発生から 2 分後に全国中継の「地震特設ニュース」に切り替わり、「地震特設ニュース」に参加する形で、局内の様子や通信部記者の雑感、警察・消防・役場から電話取材で得た情報を放送した。津波情報や住民への注意喚起は東京のスタジオから放送された。

午前 7 時 13 分の本震は、全国中継の「おはよう日本」の中で、未明の地震を伝えるため仙台に切り替わったところで発生した。すでに、被災地に中継車や記者が配置されている中での発生だったので、現場中継や避難所のその時の情報も放送することができた。被災地の放送局としては地元向けの生活関連情報も重要な放送要素だが、震度 6 レベルの地震が続いて発生したため、通常のように、まず被害情報、それから生活情報という放送パターンではなく、まる一日被害情報が中心になった。

しかし、5 月 26 日に発生した宮城県沖の地震での放送対応の反省やその時の情報ニーズを踏まえ、災害用伝言ダイヤル 171 の案内やガスのマイコンメーターの復帰方法などを、L 字画面も含め積極的に放送にのせた。また、放送のサブツールとなりつつある局のホームページに災害情報コーナーを立ち上げ、放送した情報を簡略版にしてリアルタイムで流した。そのため、アクセス数は通常の約 30 倍の 18 万件に達し、放送と連動する形できめ細かい災害情報を提供することができたという。

続いて、東北放送の対応であるが、テレビはTBSの全国ネット番組「ニュース 23」の放送中に未明の地震があり、TBS から地震の第一報が入った。そして、「ニュース 23」が終了した後、午前 0 時 38 分から午前 1 時 3 分まで、午前 1 時 15 分から午前 1 時 27 分まで、および午前 2 時 50 分から午前 3 時 28 分までの 3 回、レギュラーネット番組を止め、東北放送単独で地震特番を放送した。放送内容は、初めは地震情報、津波なし情報、視聴者への注意喚起、被害情報などで、後半はラジオに入ってきた情報も含め、鉄道、道路、警察、消防、役場などに電話取材した情報を放送した。

一方、ラジオは地震発生の 4 分後の午前 0 時 17 分に一報を入れてから、地震情報、注意喚起などを随時放送し、体制が整った午前 1 時から 1 時間の地震特番を立ち上げた。放送内容はけが人の有無、ガス漏れ、水道管の破裂、災害対策本部の設置や、役場、警察、消

防などの電話取材で得た情報。仙台消防局からの市内の被害なし情報など、被害のない地域も安心情報を意識的に頻繁に入れた。

早朝の地震では、テレビはネット番組を途中で止め、午前 7 時 20 分から午前 9 時 30 分まで地震特番を放送した。放送内容は未明の地震と同様に地震情報、注意喚起などのほか、専門家の「宮城県沖地震とは関係ない」という話や、役場から聞いた各地の被災現場を、応援の TBS のカメラクルーと手分けして回り、映像を流していった。総花的にはなかったが、「絵」がなくても入ってきた情報は随時放送した。

次に、今回の災害放送の課題について述べておきたい。

まず、災害放送として、被災地外向けの被害情報を重点に放送するのか、被災地向けの生活情報に重心を置くのかについては、今回は 1 日に 3 回も大地震が発生したため被害の全容を伝えることが中心になり、被害情報から生活情報という放送パターンにならなかった。その上、直下型地震のため被災地域が狭く、最大震度 6 強を観測した 3 町の人口は合わせて約 5 万人の農村部、大きな地震の割には比較的被害が小さく死者が出なかった、などから人口 100 万を超える仙台市を主なサービスエリアとする放送局にとっては、限られた被災地のニーズを集中的に取り上げていくのは難しかったようである。

しかし、L 字画面や字幕スーパー、局のホームページを積極的に使い被災者向けの情報提供に務めたことなどによって、今後の災害時の放送のあり方が見えてきたといえる。

では、今回の一連の地震では、被災者の情報ニーズに添った災害放送がなされたのだろうか。

災害にはそれぞれ固有の顔があるといわれるが、地震災害での情報ニーズには一定の傾向がある。過去の地震災害において、地震直後またはその日に知りたかった情報の上位の 5 つは次の通りである。

すなわち、1978 年の宮城県沖地震では 余震情報 73.7%、被害の状況 61.7%、火災や津波の発生 37.7%、水道、ガスの状況 37.5%、家族や家のこと 35.3%（宮城県調べ）、1995 年の阪神・淡路大震災では、余震情報 63.1%、家族や知人の安否 47.8%、

地震の規模や発生場所 37.1%、地震の被害 34.0%、電気、ガス、水道、電話の復旧見通し 31.6%（東京大学社会情報研究所調査）。そして、今回の宮城県北部地震では、余震の可能性やその規模 86.1%、地震の震源地や規模の情報 68.6%、自分の住む地域にどんな被害がおきているか 60.9%、交通機関、ライフラインが大丈夫か 52.5%、避難すべきかどうかの情報 29.7%（東京大学社会情報研究所調査）などであった。

放送局に入ってきた情報を、その場その場で放送していくのもいいが、過去の災害から学ばない手はない。災害時に被災者がどんなニーズを持つのかを知って災害放送に取り組めば、より有用な災害放送が可能になる。

今回の地震時も、2 ヶ月前の宮城県沖の地震の反省から、NTT 東日本や仙台市ガス局

と事前に話し合いを持った結果、災害用伝言ダイヤル 171 の案内やガスのマイコンメーターの復帰方法についての放送が比較的スムーズにでき、成果があったという。

たとえば、今回の地震でも最も情報ニーズの高かった余震情報について、気象庁などが発表する余震情報を伝えるだけでなく、具体的な備えや行動に結びつく、「火を使う場合はいつでも消せる準備をしてからにしてください」、「お宅のブロック塀や石塀は大丈夫ですか。危険なようでしたらロープで囲うなどして下さい」などと踏み込んだ呼びかけをしていれば、テレビ・ラジオの放送に対して「余震に関する情報をもっと詳しく伝えてほしかった」というニーズ（67.2%；東京大学社会情報研究所調査）は、さらに低い数字になっていたのではないだろうか。

また、地震発生時の放送対応だが、NHKも民放も、地方局は、ほとんどの番組を東京（キー局）から受けて放送する番組編成となっている現状では、足元で発生した地震にもかかわらず、その第一報や初動の住民への注意喚起は、遠い東京から流されることになる。今回の地震でも、早朝の本震は、発生時に偶然、NHK仙台放送局がマイクを東京から渡された時に発生したので地元で対応することになったが、その前の未明の地震のときは、初期段階は東京（キー局）主導で行われた。

地震情報の放送については東京出しと地方局出しで大差がないと思われるが、住民への呼びかけは、地元にあった呼びかけマニュアルを用意している地方局のほうが、きめ細かく情報を伝えられる。また、住民は東京からの呼びかけより、日頃、馴染んでいる地元アナウンサーなどの具体的な呼びかけのほうが安心し、防災行動にも結びつくことになると思われる。今回の東京大学社会情報研究所のアンケート調査でも、発生直後と限定はしていないが、テレビ・ラジオの放送に対して「具体的な行動や対応についての情報をもっと伝えてほしかった」という人が、39.6%もいた。

それから、今回の地震でも、取材のあり方が問われた。

震度 6 強を観測した矢本町、鳴瀬町、南郷町の防災担当者は一様にマスコミの電話取材攻勢に困ったという。具体的には、「防災担当がマスコミ対応に追われ、防災業務に支障があった」（矢本町）、「黒板に書いてあるのに聞いてくる。住民対応より報道対応に時間をとられた」（南郷町）、「午前 3 時ごろまで 7 回線ある電話のすべてをマスコミに占領され、住民から苦情が来た」（鳴瀬町）などという声があった。中には「マスコミは邪魔になった」と言い切る防災担当者もいた。

しかし、「テレビで情報を収集した」と放送の「功」を認めているように、役場（自治体）側は、マスコミ、とくに放送を災害時の広報機関と位置付けて利用する手立て、たとえば災害時のマスコミ担当を決めておくとか、早い段階でホームページに基礎データだけでも載せるとかの工夫が必要であろう。また、マスコミ側も、局内で情報を共有するシステムを作り番組ごとの問合せを減らすとか、出向いてボード発表で情報を得るなど、極力、役

場の防災担当の手を煩わせない努力をすべきであろう。

最後に、阪神・淡路大震災を現場で体験したNHK仙台放送局ニュースデスクの、「あの震災のとき大阪の住民が平気で暮らしていたのと同じで、あれは近くの町の地震であって、仙台ではないと受け止めているところがある。危機感が宮城県全体で薄いと感じる」という言葉を聞き、25年前に宮城県沖地震を体験し、30年以内に宮城県沖地震の発生が懸念されている宮城県民（仙台市民）にして、災害を他人事と捉えていることにショックを覚え、災害対策の難しさを改めて考えさせられた。防災は風化防止対策でもあるとつくづく思う。

附属資料 1 気象庁震度階級関連解説表

震度 階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物	鉄筋 コンクリート 造建物	ライフライン	地盤 斜面
0	人は揺れを感じない。						
1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。						
2	屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。					
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。	棚にある食器類が、音を立てることがある。	電線が少し揺れる。				
4	かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。自動車も運転していて、揺れに気付く人がいる。				
5 弱	多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのかわかる。補強されていないブロック塀が崩れることがある。道路に被害が生じることがある。	耐震性の低い住宅では、壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い建物では、壁などに亀裂が生じるものがある。	安全装置が作動し、ガスが遮断される家庭がある。まれに水道管の被害が発生し、断水することがある。[停電する家庭もある。]	軟弱な地盤で、亀裂が生じることがある。山地で落石、小規模な崩壊が生じることがある。
5 強	非常に恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。据え付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。多くの墓石がある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。	耐震性の低い住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。	耐震性の低い建物では、壁、梁（はり）、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。耐震性の高い建物でも、壁などに亀裂が生じるものがある。	家庭などにガス进行供給するための導管、主要な水道管に被害が発生することがある。[一部の地域でガス、水道の供給が停止することがある。]	
6 弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い建物では、壁や柱が破壊するものがある。耐震性の高い建物でも壁、梁（はり）、柱などに大きな亀裂が生じるものがある。	家庭などにガス进行供給するための導管、主要な水道管に被害が発生する。[一部の地域でガス、水道の供給が停止し、停電することもある。]	地割れや山崩れなどが発生することがある。
6 強	立っていることができず、はたと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも、壁や柱がかなり破損するものがある。	耐震性の低い建物では、倒壊するものがある。耐震性の高い建物でも、壁、柱が破壊するものがある。	ガスを地域に送るための導管、水道の配水施設に被害が発生することがある。[一部の地域で停電する。広い地域でガス、水道の供給が停止することがある。]	
7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。	耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。	耐震性の高い建物でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。	[広い地域で電気、ガス、水道の供給が停止する。]	大きな地割れ、地すべりや山崩れが発生し、地形が変わることもある

附属資料 2 放送局へのヒアリング結果

■ NHK仙台放送局 放送部ニュースデスク（聞き手 中村信郎 03.08.06）

Q：7.26 地震の取材、放送対応だが、まず、未明（0 時 13 分）の地震の時は？

A：最終ニュースを東京から出していた。震度 3 の地震一報スーパー（0 時 13 分 30 秒）から始まり 1、2 分のうちに 4 になり、5 になり、6 になり、その都度スーパーが出た。NHK は震度 3 から全国放送でスーパーをすることになっている。今回の場合もニュースの上に自動的にスーパーが出た。

：0 時 15 分から「爆笑オンエアバトル」（全国）に一旦入るが、28 秒後に「地震特設ニュース」（全 11 波）に切り替わる。0 時 50 分まで。

Q：放送内容は？

A：被害が全く見えないので、原発、道路、鉄道など入り次第、そのまま全国に流していった。

：「地震特設ニュース」の段階では震度情報より、現場雑感の方が多かった。この時間には各役場の情報、警察の情報が入ってきた。ここ仙台ではそれほど揺れなかったため被害の状況がわからず役場、住民、通信部の記者などに聞いてどんどん入れていった。

：消防、警察、原発の情報は入るが、役場の情報や地域で何があったかが入りだしたのは 1 時間ぐらいたってからだった。そのうちどうもけが人が多そうだと分ってきて病院への取材もはじめた。役場や病院への取材は東京からも電話を入れて東京からまとめて出していた。

：一番恐いのは津波。津波と原発の情報を気にした。結果として死者が出なかったが、津波が起きているのか、死者は出ているのか分らないので、まず被害全体を知るための作業をした。

：被害情報、生活情報など整然とした流れではなかった。東京からは津波注意、火の始末などをアナウンサーは繰り返し言っていた。

Q：住民への呼びかけ文はあるのか。今回使ったのか。

A：ある。5 月の経験もあるし、アナウンサーのブースに置いてある。阪神大震災あり、5.26 地震あり、宮城県沖地震といわれているのでアナウンサーは、ことあるごとに読んでるので臨機応変にやっている。

Q：5.26 地震についての反省点はあったのか。

：一番の問題は電話が輻輳して情報の入手に支障があった。丁度、夕方の時間ということもあって通常のアクセスの 25 倍くらい。災害時優先電話もかかりにくくなった。

：今回は夜中、仙台市内はそれほど揺れなかったこともあってちがった。同じ規模の地震が仙台市内であつたら違っていた。

Q：視聴者からの情報の扱いはどうしたのか。

A：あつたが裏を取れない話なので、そのままニュースにすることはほとんどなかった。うちのガスがとまったけどどうしたらいい、の話まで全部きた。

：役所に聞いてもわからないから NHK ならわかっているだろうと問合せきた。裏山が崩れているとか、ここが壊れて困っているとか。2 時 3 時ごろになると家のあたりもひどいから取材にきたらという情報も寄せられた。映っているよりうちの方がひどいよとの話だとか、本当に困っているという問合せはなかった。

Q：5.26 の放送対応の経験が継承されていたのか。

A：冊子にまとめる予定だが、そのとき求められたものをなるべく出していこうということで、携帯や災害伝言ダイヤルなど出していった。

Q：早朝（7 時 13 分）の地震の取材、放送対応は？

A：「おはよう日本」のニュースの中で地震を取上げ、「仙台さん」と切り替えたときに揺れていた。7 時 16 分 23 秒から「地震特設ニュース」（全 11 波）に入る。8 時 15 分まで。

：「こころ」のあと、また「地震特設ニュース」（全 11 波）を 1 時間。そのあと東北ブロックの「地震特設ニュース」。東北ブロックは、ほぼ 1 日、地震のニュース。通常番組の中には逆 L 字による地震情報を流した。

：7 時間前に前の地震が起きているので中継車も記者も現場に行っていた。その中で起きた地震だったので、避難所からも情報が入ってきた。現場の情報は、2 回目はスムーズに入ってきて何が起きたかすぐわかった。

Q：災害時の放送は被災地向けか、被災地外向けかで違ってくるが、どちらを意識して放送をしたのか。

A：阪神大震災はあの規模の災害なのであのような情報が求められた。今回、ある面ではそれほどの規模ではなかったもので、そのバランスを普通のニュースの中で取っていく作業だった。今回の規模だったらニュースの中にいろいろなことを伝えながら生活情報を織り込んでいくことだと思う。

：東北ブロックの放送では、県庁でホームページを立ち上げたとか、NHK でもやっているとか、相談窓口が開設された、そういう情報をニュースの中に織り交ぜながらやった。あと、災害伝言ダイヤルとか。5.26 で求められた情報の雛型があるので、それをもとにニュースの中に入れ、それをまた L 字で流したりした。

Q：時間の経過によって情報内容を変えることはあったのか。

A : 今回は特殊。3 回続いたの。次が本震だとは想定していなかった。普通だとだんだん見えてきて生活情報などに転換しなければならぬときに、また、被災した。しかもそれが一番大きかった。そこからまた取材を立てていく作業だった。

: 今回、一番求められるのは「こんな地震がいつまで続くのか」ではないだろうか。2 回目、3 回目の地震を受けて生活情報がどう変わっていくか見えない状況だった。

: あまりマニュアルに添った形にはいかなかった。まず被害情報やって生活情報やってというパターンがなくて、まる一日被害情報が中心になってしまった。

: あの地域だからできたことで、あれが大都市圏でおきたらもっとライフライン系の情報が求められたと思うし、ニーズも違って来た。被災世帯は最高で 1 万世帯ぐらい。この規模の地震では少ない方だと思う。

Q : 防災情報ネットワークは今回、放送などに反映されたのか。

A : 今日会議があった。5 . 26 のとき電話がつながりにくかったことから開かれた会議で、もっと密にネットワークを構築しよう、ライフライン系の情報が生で通信系に入ってくるアクセスの取り方はできないか、こちらから問合せ聞くのではなくもっとダイレクトに情報がはいってくれば生活情報は出しやすくなるのではないかと、などのためのワーキンググループを 9 月に立ち上げるようになった。

: その話し合いをしてきたことが、地域性もあるが今回の地震に生かされた。放送上は緊急の電話以外は控えましようとか、伝言ダイヤルの利用を呼びかけた。今回、伝言ダイヤルの利用回数が 3 万 8000 件あった。多少は放送での呼びかけが生きたのかなと思っている。

Q : 5 . 26 のとき放送での呼びかけが少なかったと言われている。今回、災害用伝言ダイヤル 171 やマイコンメーターの呼びかけはどうしたのか。

A : 読み原稿で用意していたものを使った。テロップも用意していた。

: 今回の 5 . 26、7 . 26 で 171 はかなり知れ渡ったと思うが、1、2 年するとまた風化するので日頃から有効性を PR するべきだ。NTT も含めて。

Q : 確かに今回、NTT は規制をしてから 1 時間後ぐらいにメディアに連絡している。規制を決めたら連絡するぐらいの努力をしないときちんとした連携にならないと思う。

A : 今回、NTT やドコモと 5 . 26 のあと話し合いをしていたから対応できたが、何もやっていないで 1 枚紙で来ても見過ごしてしまう。防災緊急用のネットワークなり、雛形を作っておく必要がある。

Q : NHK は生活情報系の情報の共有には抵抗ないのか。

A : 全くない。むしろありがたい。手薄な中でこのような情報が裏を取る必要のない状態で集まってくることはものすごく有効だ。171 はすでに雛型があるので、他もそれに近いものを作り情報の授受をしたらお互いに楽だ。アナウンサーが慣れたらその紙だけを持って放送できるようになればいい。

Q : FAX、メールも利用できるのでは？

A : メールだと誰か張り付いていないとならないし、また誰が送ってくるかわからないので危険性もある。

: 災害情報の共有メールにするか、県の防災課がセンターになってそこに情報を集めてそこにアクセスすれば情報が取れるようにするか、ホームページを立ち上げるか、だと思う。

Q : 3 町は口をそろえてマスコミに迷惑したと言っていた。取材上の配慮はどのようにしているのか。

A : 夜中の取材は役場情報に頼る以外にない。また、東京からも電話取材をした。しかし、では他にやりようがあるかとなるとそれ以外の情報の取り様はない。

: まずはその場の拠点である役場がどう動いているのか、どう把握しているかを聞かざるを得ないところがある。その情報はなくていいかというわけでもないし、県が情報を一元的に情報を集めてくれる体制にないし、役場の取材をせざるを得ない。小さい町であればあるほど対応が難しくなってくる。

Q : なぜ、嫌われるのだろうか？

A : 南郷町も最初はうちの話を聞いてくれていた。阪神大震災のときもストレスがたまり、いつまでおれたちを映し続けるのだとなった。今回もそれに近いことが 3 日目ぐらいから出てきている。衝突もないような避難所のあり方はおかしいのだが、うちは田舎だからいらないと言う。

: 今回は特に被害が集中しているので各マスコミは 4 町に入っていく、そうすると役場だけでなく、住民もメディアに対し、もう放っというてくれとなる。

: 引き際を考えないと。今回は 4 日目ぐらいで中継車も撤収したが、死者が出ていたらどうなったかわからない。難しいところだ。

: こちらとしては住民向けの情報も含めて取材しているのでマスコミをうまく生かして欲しいと思うが、役場の対応はあくまでマスコミ対応でしかない。そのギャップを埋めていく作業が必要なのだと思う。

Q : 鳴瀬町の担当者は最初情報がなかったでテレビの情報に頼ったと言っていた。

A : 隣の町の状況をテレビで知ったという功績はあるが、一方で同じ情報が一人歩きしてぐるぐる回ることもある。テレビで見たからこうではないかと、その情報がまたテレビに戻っていく。被害情報などは特に怖い。

Q : メディアスクラム問題は阪神大震災の時も言われた。

A : 記者は目に付いたものをどんどん取材していく、それを止めたら終りだ。取材する前にうまくバランスを取れ、コーディネートしろとはいえない。NHK 全体としても他のマスコミとの兼ね合いもあって対象に集中することになる。

Q : インターネットをどのように活用したのか。

A : これまでアクセスはあまり多くなかった。今回こうすることでアドレスを告知したりしたので飛躍的にあがった。もっと増えてもいいかなと思っているが 30 倍も上がったのでまあまあかなと思っている。

: 東京は東京、仙台は仙台。情報は放送したものをリアルタイムで打ち込んでいる。放送より簡略版を流した。映像もつけたものもある。いまNHKはホームページでは映像付で見られるようになっている。仙台では技術系の人たちが数人で対応した。何を載せるかは報道が指示をするが、災害時は技術系の人たちでもわかるものだ。

: このホームページの活用もまさにきのうの検討会の課題になっていて、このワーキンググループを 9 月に立ち上げるようになっていく。ライフライン系との直結の問題とホームページ、防災行政無線、電子掲示板についても検討会を立ち上げるようになった。

Q : ラジオはテレビの音声を生じたのか。

A : そうだ。人もいないし。

Q : 記者として動ける人は何人いるのか。

A : 16 人。デスク 4 人、カメラマン 7 人。職員は 100 人余り。東京、山形、秋田、札幌などから応援をもらった。どこに被害が出たのか把握がなかなかできなかった。

: ヘリは持っている。朝の地震では飛んでいたが、今回の地震は上から見て被害がわかる地震ではなかった。恐いのはこれから雨が降って崩れることだ。避難している人も裏山が崩れることを心配して避難している。

: 大きな地震、災害のたびにいろいろ言われてきたが、あらためてここが問題だった、と言う認識で、何かデータを持ってやりたい。

: 次の宮城県沖地震があるので、今回これだけリハーサルみたいなことをやっていたら本番でこけましたでは言い訳にならない。

: 今回いろいろ見えてきたので急ピッチで対応策をたてなければと思っている。これで、一人二人亡くなっていたら変わっていた。

Q : 一連の地震で感じたことは？

A : 今回、みんな地震が恐い恐いと言っているがマスコミも行政も住民もみんな舐めていたのだなとの印象をもった。わが局も宮城県沖地震と聞いていながら、こんなこともやっていなかったのか、もあった。

: 町も宮城県沖を想定しているならもっとシミュレーションをしておくべきだ。ライフラインにしても今回たまたまうまくいっただけ。その危機感が宮城県全体で薄いと感じる。

: 県は真中を仙台市に取られていて自分たちの役割を見失っている。恐い恐いと言っているが実効性のある行動に結びついていないというのが全体の印象だ。耐震も、ブロックも、情報も、恐いと言って 5 月があって、7 月があってこれで準備ができていなければ犯罪行為といわれてもしかたがない。

: 検証している場合ではない、問題点が出ているのでそれを具体的に準備していく段階にある。

: 阪神大震災のとき大阪の住民が平気で暮らしていたと同じで、あれは町の地震で仙台ではないと受け止めているところがある。

: 南郷町などのインタビューでも恐い恐いと言っているが家具の固定など何もしていなかったことが分った。他人事だと思っている。これは他の地域でもいえること。たまたま、今回は旭山撓曲だっただけ。隠れた断層は日本中どこでもある。

■東北放送 B 報道制作局次長（ラジオ）、C 報道制作局部長（テレビ）（聞き手 中村信郎 03.08.06）

Q : 7.26 の未明の地震のときの放送対応は？

A : 「ニュース 23」の中で東京から一報が入った。上りの要請があったが、アナウンサー一人で手一杯だったので東京で処理をしてもらった。ラジオで 0 時 17 分に一報を入れているので、そのあたりで東京から出たと思う。

: 「ニュース 23」が終わったあと 0 時 38 分から 1 時 3 分まで地元で特番を放送した。それまでは TBS からスーパー処理だった。特番には TBS の CS が飛び乗り飛び降りて放送。TBS はそれを地上波ではやっていない。

: 発生から 1 時間たち人も集まり、電話も通じたので 1 時 15 分からの「ぐまらず」の中をカットして 12 分間放送した。CM は放送した。携帯は一部ダメだったが社内から外部にかける電話は問題がなかった。私は J フォンだったがダメだった。

Q : 放送した主な情報は？

A : 地震情報、津波なし、注意喚起、被害情報なし、など。注意喚起はラジオ、テレビにコメント集がある。情報の繰り返しや火災がない、とかで、被害情報はまだ入ってこなかった。深夜で見えづわからなかった。情報を集めては小出しに出していった。初動は深夜なので泊りの体制範囲内しかできない。記者 1、アナ 1、カメラマン 1、バイト 1 の 4 人。

: 0 時 53 分にラジオで「矢本町目立った被害なし」と放送している。矢本町役場に電話を入れた。他の役場にもほとんど電話を入れた。ラジオとテレビは情報を共有した。ラジオで集めた情報も報道（テレビ）に流した。

: 1 時の段階で県が会議を開く映像が県庁からマイクロで入ってきたので、それも繰り返し使った。繰り返し放送しているうちに新しい映像が入ってくると流す。JNN の地図画面も繰り返し流した。

Q : 「ぐまらず」のあとは？

A : 体制を立て直して 2 時 50 分から 3 時 28 分まで大きなスタジオを開いて、「報道地震特番」を行なった。

Q : 放送内容は？

A : 入ってきた情報、ラジオに入ってきた情報をすべて流していった。たとえば、エレベーターがとまったとか、JR や高速の不通、災害対策本部が設置された、関越道が通行止めになったなど。県庁から入ってくるものや、県警、消防、役場などに電話を入れてかき集めた。共同通信からもきた。

: 明るくなると全容はよく分らないので様子を見ていたが、また地震が発生した。実際、その地震で被害が大きく出てきた。

: ラジオは情報が滞ってきたので午前 2 時で災害関連の放送はやめた。これ以上の広がりはないだろうと判断した。そのあとは J R が回復したといった情報は逐次入れた。

: テレビも特番のあとは、一旦辞め、取材体制はそのままに明け方まで様子見になった。あの時点ではあれが本震とみんな思っていたのであとは余震に注意するくらいだった。明けたら取材をしておそうという感じだった。

: 2 時から 3 時のあとはやっていない。余震情報をスーパーで入れたくらい。各局もやめたようだ。

Q : ローカルとネットの割合は？

A : 土日は、ローカルは定時ニュース以外にない。生ネットが番組販売のテープネット。しかし、枠は編成マタ - で開ける（ローカル処理）ので放送は可能だ。

Q : 朝の地震の放送対応は？

A : 7 時からの「フィッシング」を途中、7 時 20 分からカットして次の番組にくだり込んで 7 時 53 分まで地震特番を放送した。

: 情報内容は未明と同じような内容。震度情報、呼びかけ、津波情報など。学者の宮城県沖地震とは関係ないとか、いろいろな話も入れた。

: 8 時からの T B C（東北放送）の地震特番が J 特になり J 系の一斉放送になった。8 時 20 分までで、T B C（東北放送）はそのあと 9 時 30 分まで続けた。その中で T B S に 10 分おきぐらいに 2、3 分上げた。

: 朝の地震は現場に S N G などのクルーが張り付いていたので映像はとれた。入ってきた絵を入れていった。応援の T B S のクルーには 7 時ごろと土砂崩れ現場を頼み、鳴瀬町など役場には地元なので場所が分るので T B C（東北放送）の S N G 車を回した。役場で被災現場を聞いては現場に出向いて取材する形をとった。

: 9 時 30 分以降は、スーパー処理し、昼ニュースの体制を作った。地震情報は T B S の J N N 気象システムから色分けで入ってくる。パイロットランプがくるくる回るシステムになっている。

Q : かなり早い時点で、宮城県沖地震と関係ないと出している。はじめ宮城県沖地震と思ったか。

A : 揺れが違ったので思わなかった。ドンと上からきたので。5.26 の地震とも違った。阪神大震災を経験しているのであの時と揺れ方は似ていた。ドンと来た。それからぐらぐらと来る。プレート地震だったらゆらゆらだ。

Q : 現場と仙台の本社と温度差があると聞いた。

A : あった。

Q : 今回、前震のあと本震だったが、どのような情報を基本的に流していったのか。

A : 総花的だった。時間を区切って情報を流してはいない。入ってきた情報を流していった。絵がなくても入ってきた情報は流すように心がけた。テレビでは安否情報は基本的にはやらない。

Q : 視聴者がどんな情報を求めているかを普段から考えているか。

A : 難しい。阪神の時は時間とともに求められる情報が変わった。だから時間とともに放送する情報も変えていったが、今回それほどの被害がなかったので・ ・

: 今回難しいのは、被害が限定されていた。5 つの町に被害が集中している。一番人口の多い仙台市はほとんど被害がない。その中で何を伝えるかということ、放送を見ている人は大多数が仙台市民だから、被害の大きかったところだけの生活情報とか、そこで求められているものを集中的に取上げることは事実上不可能だ。

: 地域に密着したラジオでもそこまでできなかった。ニュースやワイドの中で取上げたくらいで、あらためて枠を設けて生活情報だ、役場情報だではできなかった。

Q : 災害時の放送の役割は被害の大きさと被災地域の広さによるということか。

A : 一時的には 10 万戸以上の停電があったが、昼過ぎには 1 万戸近くになり、夕方には 5600 戸になっていた。早い時点で電気は復旧している。

: 震度 6 強を観測した矢本町が人口 3 万、南郷町が 7000 人、鳴瀬町 1 万 2000 人と合わせて 5 万ぐらいか。広域放送である放送が、地元密着のラジオにしても、悩ましいところだ。人が死んだとしてもニュースではやるが、防災放送までは行かない。

: 社の視聴者センターへはラジオはよくやったとの声が寄せられている。特別、生活情報をなぜやらないのかななどの苦情の電話などはない。

: 小さな町だから放送よりも役場とのつながりが強い、日頃から直結している。大都市になればなるほど行政とのつながりが希薄になるので、放送が間に入ることになる。

: 市民生活が麻痺したときテレビ、ラジオの役割も変わってくる。今回のようにちょっと離れれば欲しいものが手に入る。前の宮城県沖地震のときと違う。

: テレビは 5 時から 5 時 30 分まで T B C（東北放送）単でこれまでのまとめを特集した。

Q : ラジオは？

A : 未明の地震は、当初は情報が入ってこないで、マニュアル本に添って注意喚起や地震情報、交通関係、0 時 36 分に女川原発異常なしが入ってきたので原発情報などを繰り返し流した。その後、応援体制ができたので 1 時から 2 時まで特番にした。放送内容はけが人のあるなし、ガス漏れ、水道管の破裂、災害対策本部の設置、あとは役場、警察、消防などの電話取材を入れていった。

: 震度分布で被害地域はある程度分るが、仙台消防局からの「市内の被害なし」など、被害のない地域も安心情報を意識して頻繁に入れた。いたずらに被害の大きさだけを強調するようなことはしなかった。宮城県沖地震の経験や 5.26 地震の話し合いを持ったりしたので。

: 沿岸部に津波を想定して防災レポーターを委嘱している。今回 3 人に電話でレポートしてもらった。自分の家と見える範囲の周りの様子、消防無線で「津波がない」といっているなど。

: 2 ヶ月に 1 回ぐらい地震訓練をしている。震度 5 弱以上の場合は通常の番組を止めて地震速報に入ることになっている。CM なしで。

: 早朝の地震は 7 時 13 分から 18 時 30 分まで地震特番を行なった。

Q : 5.26 地震と今回の違いは？

A : 電話が通じたこと。5.26 は電話がつながらなかった。今回は電話が生きていた。5.26 は災害時優先電話もなかなかつながらなかった。

: 今回はラッキー。電話がつながった、津波がなかった、これだけ大きな地震なのに火災も発生しなかった、死者も出なかった。もしあった場合、これだけの人間でどれだけ対応できたかお寒い限りだ。その場合は現場部門だけでなく管理部門も加わらなければ対応はとてもできない。しかし非現場の支援体制をマニュアルに落とし込むと緊急時の本にならない。

Q : 宮城県沖地震といっていながら危機意識に欠けるとの話もある。

A : 被災者には悪いが、われわれにとって訓練になったし、本当にやってくるとの思いが高まった。

Q : 防災情報ネットワークは。

A : 5.26 に比べれば県も市もライフラインも情報は早く出してきた。5.26 の反省をしたところに今回の地震だったので反省が生きた。

Q : 防災情報ネットワークは、被害報道に偏らない、安心報道のバックアップになるのではないかな。もっともっと活用すればさらに住民のための放送になる。

A : ライフラインなどにホットラインの要望を出している。本来専用線があればいいのだが。今後メールでも。

: 寄せられる膨大な情報をどう整理するか、その反省がまだ活かしきれていない。それほど情報量が多かった。JR も表を送ってくるが、どこが更新したか書いていない。それを読み取らなければならない。

Q : 災害用伝言ダイヤル 171 は、読み原稿なり VTR を用意してあるのか。

A : ない。やろうという話で止まっている。NTT から送られてきた原稿をリライトして放送した。NTT で作ってくれたビデオはあるがそのまま放送では使えない。学習して下さいなさいが、民生用のビデオなので放送には使えない。デジタルテープなら使える。しかし各局によっても違う。

Q : インターネットの活用は？

A : テレビの L 字画面をそのままホームページの L 字にほぼリアルタイムで開いた。5.26 はやっていないのではじめての試み。見た人は 1 万件を越えた。

: ラジオ、テレビ、インターネットの 3 媒体で災害情報を流した。

: 5.26 で県やライフラインのホームページの対応が後手後手に回った。今回はその反省から関係機関はホームページでの情報提供をした。L 字でやったのはうちと NHK ぐらいかな。

Q : リスナー情報の扱いは？

A : はじめは電話の輻輳を心配し、電話の使用を控えてくれと放送した。ある一定の時間が経ってから情報を下さいと呼びかけた。電話 89 件。メール 49 件。メールはほとんど携帯からだった。内容は被害情報。放送に載せた。

Q : 町役場でメディア対応に困ったと言っていた。肝心の災害担当がメディア対応をせざるを得なかったという。

A : 情報収集で役場に電話をかけざるをえない。ジレンマだ。メール、FAX でいかに一斉配信してくれるかにもよる。われわれが求めている情報をいかに迅速に出してくれるかもある。行政側の対応も配慮してもらいたい。

Q : その意味では防災情報ネットワークは有効だ。メディアは情報を求めているのだからもっと活用すればいい。

A : ライフラインも何回か会議をして分ってきた。ライフラインからどのような情報が欲しいのか聞いてくるようになった。

2003年7月宮城県北部を震源とする地震についての調査

～ ご記入にあたってのお願い ～

- 調査は、お宅の20歳以上の方お一人がお答えください。途中でお答えになる方が入れ替わったりしないようお願いいたします。
- ご記入は、黒の鉛筆かボールペンでお願いします。
- ご回答の方法は、あてはまる番号を選び○をつけていただくものと、具体的な内容をお答えいただくものがあります。なお、選択肢の「その他」をお選びになられた場合は、（ ）内に具体的な内容をお答えください。
- 質問のご回答によっては、次に進む質問が異なるものもありますので、質問番号に記載した指示に従ってご回答ください。
- 大変恐縮ですが、ご回答されたアンケート票は、8月18日(月)までに、同封の封筒（廣井研究室宛）に入れご投函ください。
- ご不明の点がございましたら下記までお問合せください。

調査主体 東京大学社会情報研究所 廣井研究室
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
調査実施 株式会社 サーベイリサーチセンター

《まず、7月26日夜0時13分の地震についておうかがいします》

（矢本町・鳴瀬町：震度6弱、南郷町：震度5強）

問1 この地震が起きたとき、あなたはどこにいましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
自宅にいた	97.4
屋外にいた	0.0
乗り物で移動中だった	0.4
その他	1.5
地震当時、宮城県北部にはいなかった	0.7
合計	100.0
	(N=550)

問2 あなたは、この地震が起きたとき、何をしていましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
眠っていた	73.0
床に就いてはいたが眠ってはいなかった	10.9
本を読んだり音楽を聞いたりしていた	3.5
風呂に入っていた	2.0
仕事をしていた	2.4
飲食していた	1.6
家族と団らんをしていた	2.9
その他	3.6
合計	100.0
	(N=550)

問3 この地震が起きたとき、あなたはとっさにどんなことをしましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
落ち着いてじっと様子をみていた	28.1
ほとんど動けなかった	29.2
火の始末をしたり ガスの元栓を締めたりした	14.3
家具が倒れないように押さえた	9.9
安全な場所に隠れたり 身を守ったりした	8.4
頑丈なものにつかまって身を支えた	6.5
子供や老人、病人などを保護した	14.3
戸、窓などを開けた	33.5
家や建物の外に飛び出した	6.3
建物の中に飛び込んだ	0.2
車・バイクなどを止めた	0.2
まわりの人の安全を確かめようとした	23.6
無我夢中でおぼえていない	5.9
その他	4.8
	(N=550)

付問1 (問3で「火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした」と回答した人だけ)
それは、いつしましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
揺れ始めたとき	29.9
大揺れするとき	7.8
揺れがおさまってから	55.8
その他	6.5
合計	100.0
	(N=79)

(再び全員に)

問4 この地震で、あなたは、自宅を離れて避難をしましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
避難した	10.2
避難しなかった	89.8
合計	100.0
	(N=550)

問5 この地震によって、お宅ではどんな被害がありましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
自分や家族がけがをした	4.1
自宅が全壊した	0.7
壁や天井が壊れた	26.9
屋根が壊れた瓦がずれたり落ちた	28.2
ブロック塀が倒れた	12.3
ブロック塀にヒビが入った	14.2
家具が倒れた	44.1
窓ガラスにヒビが入ったり割れた	19.4
食器棚から食器が落ちて壊れた	75.3
トイレ、風呂などの設備の具合が悪くなった	16.4
土砂崩れが起きた	3.4
その他	15.5
特に被害はなかった	9.3
	(N=550)

その他：○私が、妻、子供をかばって、背中に物が落下して打撲をした。○二階に昨夜の地震にて被害はなかったかと、様子を見ている時に7時13分の地震が来たので逃げようと思っていた時にタンスが倒れて頭にあたり大きなコブが4つでた。○家具や(タンス)倒れ、下敷きになり、肩や首筋をいためた。○壊れたせと物のかけらで足の裏を切った。太もも強打(青タンになった)○しらない内に胸をぶつけたのかどうかしらなかったのだけど、4日ほどしてだんだん痛くなったので、病院に行ったけど、レントゲンが故障で薬だけもらって来た。まだ痛い。○お風呂に入ってたので、あわててあがろうとして、風呂のふたの角で足を切った。停電になったので、見えなかった。その時点ではけがをした事は解らなかったが、娘に言われて気づいた。○家具が倒れたとき、頭部にあたりケガをした。○家具が倒れて、頭・肩・腰を打った。○ガラスのこわれの片づけで。○大型テレビが倒れて腰を打撲した。○割れたガラスで手を切った。○私は息子ですが、母が玄関におりまして、私は茶の間で横になっておりまして、突然の地震にびっくりしてあわてて外にでたもので、その時にケガをした。○本棚の下になった。○家具がたおれ、下じきになり骨折(6ヶ月の入院との事)○母が落下物で右手を打撲。○屋外の飛び石につまづき転倒。腰、足の打撲(軽度) 屋外に出たのは発生後5分位後でした。○ガラスをかたづけている時、指にガラスのはへんがささった。○家具が倒れ下敷きになり、頭や体にけがをした。○ベッドの前のボックスが倒れて顔に傷をつけた。86才の老母。○テレビをおさえようとしたら、テレビの角で目の横をぶつかってけがをした。

問6 あなたはこの地震の後、夜のうちに次のようなことをしましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
家の後かたづけ	54.6
家の点検	48.5
テレビ・ラジオを見た・聴いたりした	82.4
安否確認の電話	26.7
その他	9.1
特にしなかった	4.1
合計	100.0
	(N=550)

《次に、26日朝7時13分の地震についておうかがいします》

(矢本町・鳴瀬町・南郷町のいずれも震度6強)

問7 この地震が発生した時、あなたはどこにいましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
自宅にいた	86.5
屋外にいた	5.5
乗り物で移動中だった	3.5
その他	3.5
地震当時、宮城県北部にはいなかった	1.1
合計	100.0
	(N=550)

問8 あなたは、この地震が発生したとき、何をしていましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
眠っていた	10.2
床に就いてはいたが眠ってはいなかった	7.2
食事をしていた	20.0
身支度をしていた	14.6
移動していた	5.2
仕事をしていた	17.2
その他	25.6
合計	100.0
	(N=550)

問9 この地震が起きたとき、あなたはとっさにどんなことをしましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
落ち着いてじっと様子をみていた	16.3
ほとんど動けなかった	46.1
火の始末をしたり ガスの元栓を締めた	30.9
家具が倒れないように押さえた	9.5
安全な場所に隠れたり 身を守ったりした	7.9
頑丈なものにつかまって身を支えた	14.8
子供や老人、病人などを保護した	15.5
戸、窓などを開けた	28.9
家や建物の外に飛び出した	10.4
建物の中に飛び込んだ	0.2
車・バイクなどを止めた	2.9
まわりの人の安全を確かめようとした	23.8
無我夢中でおぼえていない	8.4
その他	4.2
	(N=550)

付問1 (問9で「火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした」と回答した人だけ)
それは、いつしましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
揺れ始めたとき	43.4
大揺れのとき	8.4
揺れがおさまってから	42.8
その他	5.4
合計	100.0
	(N=170)

問10 この地震の後、あなたは、自宅を離れて避難をしましたか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
避難した	27.5
避難しなかった	72.5
合計	100.0
	(N=550)

問 1 1 この地震によって、お宅ではどんな被害がありましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
自分や家族がけがをした	8.7
自宅が全壊した	3.9
壁や天井が壊れた	60.0
屋根が壊れた瓦がずれたり落ちた	56.0
ブロック塀が倒れた	25.8
ブロック塀にヒビが入った	26.0
家具が倒れた	77.2
窓ガラスにヒビが入ったり割れた	40.0
食器棚から食器が落ちて壊れた	89.1
トイレ、風呂などの設備の具合が悪くなった	37.9
土砂崩れが起きた	5.3
その他	19.0
特に被害はなかった	0.6

(N=550)

その他：○女房が家具を押さえようとして飛ばされ、フローリングの床に尾てい骨を打ちヒビが入った。
 ○カベが全部落下して、くぎがいっぱいになり、足にくぎをさした。○家具が倒れたので打撲をした。
 ○ガタガタと音がして来たと同時にタンスの戸びらがこわれて、私の頭に飛んできてガツンと火花が散った。○安全な場所へ逃げようとした時、体のバランスがとれず、不自然な手のつき方として、中指、薬指をねんざした。○柱にぶつかり（立っていられなくて腕とともに内出血）○1回目と同じ。
 ○立って電話中で、体をひねられあばら骨を折った。○大型テレビが倒れて腰を打撲した。○妻が額が落ち足にケガをした。○戸を開けた時に、大きな揺れのため外にほおり出され足を強く着いた足首をねんざした。○玄関の戸を開けようとして、段差ですべり落ちた。打撲。○外に飛び出し瓦が頭に落ちて切り傷。○外に出る時、アキレス腱切断（妻）。○（自分）屋外で転倒して、ひじをすりむいた。（孫）廊下で転倒し、顔面打撲。○柱につかまっていたが気づいたら、右中指の骨を折っていたため、時間が経つと指が内出血してはれ上がってしまい、痛みがひどかった。○突然、地震がきたので転んでしまい、太もも、足首、お尻を強くうった。○障子につかまろうとして右手をケガした。○家具が倒れてうでが黒くなった。○茶の間にいた子どもが1人だったので、急いで戻ろうとして走り出したところ、大きくはねとばされたようだ。（下にひいていたマットを急に引き抜かれてころんだような感じ）その後も夢中だった為、ぶつけた事を自覚していなかったが、落ち着いてきたら右下肢にあざができていました。○家族が幼児が寝ているへやに行く時、あわててうでをうち打撲。○外に出る際に、揺れが激しかったので、母親は膝がアザだらけになった。○はだして外に出て、ガラスで切った。○物が飛んできて、ひたい、うでにケガをした。○たんすの下敷きになって打撲。○家族が外に出ようと飛び出し、家の中の段差で足の指の骨を折った。○食器棚が倒れて妻がケガをした。○テレビが転倒して手にあたり打撲。家具に足を打って打撲。○柱にすがみつき、振れのため、肋骨にヒビが入った。○家具が倒れてきて胸部に打撲した。長男は床にいて家具が倒れて足に打撲を負った。
 ○0時13分の地震により、室内蛍光灯がづれ落ちたものを修復しようとして、鉄製ハシゴを使い、やや修復したので下りようとした途端に激震となり、ハシゴごと飛ばされ、ハシゴに左足（膝）上をはさまれ打撲状うっ血した。○割れたガラスコップで息子が足親指をケガした。○娘が家具を支えて打撲（小指）。○割れたガラスの破片をふんで足を切った。○サイドボードが倒れ、腰をぶつけ、その上に窓（サッシ）が外れ、頭からかぶり顔・足などを切った。○こわれたガラス片で足を切った。○家内が棚からの落下物で額にこぶを作った。○タンスの下敷きになり、顔にすり傷をつけ、体を少しぶった。○外に飛び出そうとして玄関に行ったが、揺れが激しすぎてバランスを保てず、ガラス戸にぶつかり、ガラスが割れて怪我をした。○まだ寝ている小3の娘に洋服ダンス、テレビ、ありとあらゆる物が倒れるのを、主人（父親）が子どもを囲むようにして助けたときに、肩・腰に打撲の怪我をした。○家具が倒れて怪我をしました。タンスの引き出しが飛んできた。○外に飛び出した時ガラスの破片で足を切った。

問 1 2 この地震では、あなたの町は震度 6 強を記録しました。この揺れの強さと被害について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
揺れのわりに被害が小さかったと思う	20.0
揺れのわりに被害が大きかったと思う	46.0
どちらともいえない	34.0
合計	100.0
	(N=550)

問 1 3 26 日朝 7 時 13 分の地震の後、あなたが困ったことを、次の中から選んでください。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
どこに逃げてよいかわからなかった	21.8
行政からの情報が少なかった	30.8
鉄道などの公共交通機関がストップした	12.8
道路が渋滞した	22.7
電気が止まった	52.6
ガスが止まった	13.6
水道が止まった	58.4
電話が使えなかった	65.2
携帯電話が使えなかった	34.4
インターネットが使えなかった	2.7
食料の買い出しに困った	18.1
何をしてよいのか分からなかった	26.4
家族との連絡が取れなかった	12.6
親戚・知人の安否が分からなかった	18.3
その他	6.6
何も困ったことはなかった	1.3
	(N=550)

問 1 4 この 26 日の朝の地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
今回の地震についての震源地や規模などの情報	68.6
今後の余震の可能性やその規模	86.1
自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報	29.7
自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報	60.9
家に戻らない家族の安否や居所	7.1
市町村や消防の応急措置の内容や指示・連絡	26.9
道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	52.5
津波の有無について	23.4
その他	1.9
特になかった	0.6
	(N=550)

問 1 5 この地震の後のテレビ・ラジオからの情報を、あなたはどのように感じましたか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
津波があるかないかという情報をもっと早く伝えてほしかった	12.1
具体的にどのような行動や対応をとればよいかという情報を、もっと伝えてほしかった	39.6
地震のことを伝えるアナウンサーやキャスターは、もっと冷静に対応するべきだと感じた	6.3
自分の住んでいる地域の震度や被害情報を、もっと多く伝えてほしかった	59.4
電話や携帯電話のつながり具合の状況について、もっと詳しく伝えてほしかった	32.2
放送局が、地震直後に被害のあった市町村役場や消防署などに電話取材をするのは、控えるべきだと思った	16.0
地震発生時の映像が多すぎるのではないかと思った	4.1
鉄道に関する情報をもっと詳しく伝えてほしかった	10.9
電気やガスの状況をもっと詳しく伝えてほしかった	26.4
余震に関する情報をもっと詳しく伝えてほしかった	67.2
その他	9.0
テレビ・ラジオは視聴しなかった	2.7
	(N=550)

問 1 6 この地震直後（3時間以内）に、あなたは次のような通信手段を利用しようとしていましたか。
また、利用しようとした通信手段はどのくらいつながりましたか。それぞれの通信手段について、どのくらい利用できたか教えてください。あなたが普段使わなかったり、意味のわからない通信手段については「利用しようとしなかった」とお答えください。連絡手段ごとに、それぞれひとつずつ○をつけてください。

固定電話	
	(%)
すぐにつながり 問題なく利用できた	9.8
つながりにくかったが、利用できた	34.8
つながりにくく 全く利用できなかった	38.4
利用しようとしなかった	17.1
合計	100.0
	(N=550)
公衆電話	
	(%)
すぐにつながり 問題なく利用できた	30
つながりにくかったが、利用できた	2.7
つながりにくく 全く利用できなかった	40
利用しようとしなかった	90.3
合計	100.0
	(N=550)
携帯電話・PHS（音声）	
	(%)
すぐにつながり 問題なく利用できた	7.9
つながりにくかったが、利用できた	41.6
つながりにくく 全く利用できなかった	28.2
利用しようとしなかった	22.4
合計	100.0
	(N=550)

携帯メール

	(%)
すぐにつながり 問題なく利用できた	8.5
つながりにくかったが、利用できた	19.7
つながりにくく 全く利用できなかった	8.2
利用しようとしなかった	63.6
合計	100.0
	(N=550)

パソコンのメール

	(%)
すぐにつながり 問題なく利用できた	1.4
つながりにくかったが、利用できた	1.1
つながりにくく 全く利用できなかった	1.4
利用しようとしなかった	96.1
合計	100.0
	(N=550)

パソコンのウェブ検索

	(%)
すぐにつながり 問題なく利用できた	2.1
つながりにくかったが、利用できた	0.7
つながりにくく 全く利用できなかった	1.1
利用しようとしなかった	96.1
合計	100.0
	(N=550)

B B フォンなどの I P 電話

	(%)
すぐにつながり 問題なく利用できた	0.0
つながりにくかったが、利用できた	0.4
つながりにくく 全く利用できなかった	1.1
利用しようとしなかった	98.6
合計	100.0
	(N=550)

問 17 災害時に電話が混線して使えない時、自分の安否を家族に伝えることができる「災害用伝言ダイヤル(171)」という仕組みがあります。地震が起こる前、この仕組みのことを知っていましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
聞いたこともなかった	45.7
聞いたことはあるが、使い方までは知らなかった	44.9
聞いたこともあるし、使い方も知っていた	8.6
その他	0.7
合計	100.0
	(N=550)

問18 この地震の直後、あなたはテレビやラジオから、この災害用伝言ダイヤルがあることやその使い方について見たり聞いたりしましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください

	(%)
テレビやラジオから伝言ダイヤルのことを見たり聞いたりした	53.3
テレビやラジオから見たり聞いたりしなかった	44.0
その他	2.7
合計	100.0
	(N=550)

問19 では、あなたは、今回の地震の時「災害用伝言ダイヤル(171)」を使いましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
使った	1.1
使わなかった	98.9
合計	100.0
	(N=550)

《では、26日に地震が連続して起きたことについておうかがいします》

問20 26日0時13分の地震のあと、あなたは、また再び、大きな地震が来るかもしれないという不安がありましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
すぐにでも大きな地震が来るかもしれないという不安があった	23.4
数日中ぐらいに、再び大きな地震が来るかもしれないという不安はあった	11.1
再び大きな地震が来るかもしれないという不安はあったが、もう少し先のことだと思っていた	31.8
再び大きな地震がくるという不安はなかった	30.9
その他	2.8
合計	100.0
	(N=550)

問21 0時13分の地震があったことで、7時13分の地震の被害を小さくすることができた、ということがありましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
大きなケガを防ぐことができた	20.4
火を使わなかったので、火事や火傷を防ぐことができた	34.7
避難をしていたので、建物の倒壊や屋内の家具・ガラスの破損などから体を守ることができた	40.0
地震に対して敏感になっていたので、適切な対応ができた	43.0
その他	7.9
特になかった	26.1
合計	100.0
	(N=550)

問22 余震の情報についてお聞きします。気象庁は、26日午前9時に、「今日9時から24時間以内にM（マグニチュード）5.5以上の余震（最大震度6弱程度）の発生する確率は約10%未満、M5.0（最大震度5強程度）の発生する確率は約20%、M4.5以上の余震（最大震度5弱程度）の発生する確率は約40%です」などと、余震の発生確率を発表しました。あなたは、このことを知っていますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
知っている	70.9
知らない	29.1
合計	100.0
	(N=550)

付問1 （問22で「知っている」と回答した人だけお答えください）大きな地震が発生する確率が10%未満であると聞いて、この数値をどのように評価しましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
余震の発生する確率は低いと思った	51.7
余震の発生する確率は高いと思った	33.1
わからない	13.6
その他	1.6
合計	100.0
	(N=390)

（再び全員に）

問23 これからも余震の発生確率の発表を望みますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
今まで通りの形で発表してほしい	58.0
数値での発表はわかりにくいので、別の表現で発表してほしい	31.9
発表しないでほしい	1.5
その他	4.2
わからない	4.4
合計	100.0
	(N=550)

問24 今回の地震は余震が起きました。当日あなたは「また大きな余震が来るかもしれない」と感じていましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
非常に感じていた	38.8
かなり感じていた	35.0
ほとんど感じていなかった	21.6
まったく感じていなかった	4.7
合計	100.0
	(N=550)

問25 26日以降も余震がつづきましたが、そのときあなたが困ったことを、次の中から選んでください。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
どこに逃げてよいか分からなかった	16.5
行政からの情報が少なかった	27.6
鉄道などの公共交通機関がストップした	10.3
道路が渋滞した	28.7
電気が止まった	33.4
ガスが止まった	8.0
水道が止まった	49.5
電話が使えなかった	30.9
携帯電話が使えなかった	14.4
インターネットが使えなかった	2.3
食料の買い出しに困った	17.7
何をしてよいのか分からなかった	21.2
家族との連絡が取れなかった	4.9
親戚・知人の安否が分からなかった	8.0
その他	10.3
何も困ったことはなかった	5.8
	(N=550)

《今年5月に起きた地震について御伺いします。》

今年の5月26日午後6時30分頃に、宮城県沖を震源とする地震が起きました。この地震についておたずねします。

問26 この地震が発生したとき、あなたはどこにいましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
自宅にいた	67.2
屋外にいた	10.3
乗り物で移動中だった	7.7
その他	12.0
地震当時、宮城県北部にはいなかった	2.8
合計	100.0
	(N=550)

問27 あなたは、この地震が発生したとき、何をしていましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
飲食をしていた	18.8
移動していた	9.5
仕事をしていた	28.2
ひとりで部屋でくつろいでいた	11.4
家族と団らんしていた	21.1
その他	11.0
合計	100.0
	(N=550)

問28 この地震が起きたとき、あなたはとっさにどんなことをしましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
落ち着いてじっと様子をみていた	35.5
ほとんど動けなかった	15.4
火の始末をしたり ガスの元栓を締めた	32.2
家具が倒れないように押さえた	10.0
安全な場所に隠れたり 身を守ったりした	6.3
頑丈なものにつかまって身を支えた	7.6
子供や老人、病人などを保護した	11.2
戸、窓などを開けた	37.2
家や建物の外に飛び出した	11.0
建物の中に飛び込んだ	0.2
車・バイクなどを止めた	6.5
まわりの人の安全を確かめようとした	17.7
無我夢中でおぼえていない	3.0
その他	3.3
	(N=550)

付問1 (問28で「火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした」と回答した人だけ)
それは、いつしましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
揺れ始めたとき	62.9
大揺れするとき	9.4
揺れがおさまってから	26.5
その他	1.2
合計	100.0
	(N=177)

(再び全員に)

問29 もっと大きな地震が近いうちに来るのではないかと感じていましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
思っていた	40.1
思っていなかった	59.9
合計	100.0
	(N=550)

《お宅の地震対策について御伺いします。》

問30 お宅では、先日の5月26日の地震をきっかけに、何か地震対策を行いましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
地震対策をした	31.9
何も地震対策をしなかった	68.1
合計	100.0

付問1 (問30で「地震対策をした」と回答した人だけお答えください) 具体的にどのようなことを行いましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
家の中の家具を固定した	50.9
家の中の物が落下しないような対策をした	50.3
建物や塀などを補強・改修した	10.6
消火用の水の汲み置きをした	11.8
消火器を購入した	4.3
スコップ・ノコギリ・かなづちなどの修理・工作用具を揃えた	3.7
非常持ち出し品を用意した	32.9
食料や飲料水を用意した	38.5
災害時に家族が落ち合う場所を決めた	9.3
防災訓練にできるだけ参加するようにした	5.6
地震保険に加入した	5.6
避難所を確認した	10.6
窓ガラスに飛散防止のためのフィルムを貼った	3.1
観音開きの戸棚が揺れで開かないようにした	17.4
その他	8.7
	(N=175)

付問2 (問30で「地震対策をした」と回答した人だけお答えください) その地震対策は、今回の地震のとき役に立ちましたか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
非常に役に立った	19.7
多少役に立った	49.3
あまり役に立たなかった	22.4
まったく役に立たなかった	8.6
合計	100.0
	(N=175)

(再び全員に)

問31 では、7月26日の地震をきっかけに、お宅では、どのような地震対策を実施しましたか。
次の質問のそれぞれにお答え下さい。

お宅での家具の固定について。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
全部の家具を固定した	8.0
大部分の家具の固定した	15.0
一部の家具の固定した	38.9
家具の固定はしなかった	38.1
合計	100.0
	(N=550)

では、26日の地震をきっかけに次のような対策を行いましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
家の中の物の落下防止	67.4
自宅の耐震診断	11.9
自宅の耐震補強	10.3
窓ガラスの飛散防止	4.4
消火器の備え付け	5.4
ブロック塀や門柱の安全性の点検	29.4
ガスボンベの転倒防止	14.1
救急医薬品等の準備	12.5
3～4日分の飲料水の備蓄	33.4
3～4日分の非常用食糧の備蓄	18.9
その他	8.0
何もしていない	9.3
	(N=550)

では、以下の対策を行いましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
防災について、家族の役割を決めた	4.4
家族との連絡方法を決めた	12.5
避難する場所を決めた	20.9
家族が離ればなれになったときのために、落ち合う場所を決めた	8.5
ガスを使わないときは元栓を締めた	36.8
火気器具の周りを整理した	17.5
耐震自動消火装置付きのストーブを用意した	2.5
風呂にいつも水を入れた	28.5
非常持ち出し品を用意した	40.2
その他	4.7
何もしていない	15.6
	(N=550)

■ 最後に、あなたご自身のことについてお伺いします

F 1 あなたの性別はどちらですか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
男性	48.1
女性	51.9
合計	100.0
	(N=550)

F 2 あなたの年齢は次のうちどれですか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
20 歳代	4.8
30 歳代	6.9
40 歳代	23.6
50 歳代	27.0
60 歳以上	37.6
合計	100.0
	(N=550)

F 3 あなたのご職業は、次のどれですか。あてはまるもののひとつに○をつけてください。

	(%)
農林漁業従事者	16.7
自営業	9.0
経営管理職	2.3
専門技術職	6.3
事務職	11.0
労務職	4.2
販売、サービス従事者	5.6
自由業	0.8
専業主婦	15.0
パートや自営業手伝いの主婦	8.1
無職	17.9
その他	3.1
合計	100.0
	(N=550)

F 4 同居しているご家族のなかで、次のような方はいらっしゃいますか。あなた自身も含めてお答えください。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

	(%)
乳幼児	10.3
小学生	19.9
妊娠中の人	0.8
70歳以上のお年寄り	56.7
寝たきりの人	1.2
病気で体の弱っている人	9.5
それ以外で災害時の避難などに支障があると考えられる人	5.4
上記のような人は、だれもない	26.4
合計	100.0
	(N=550)

F 5 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
一戸建持家	95.6
集合住宅持家	0.4
一戸建借家	2.1
集合住宅借家	1.7
その他	0.2
合計	100.0
	(N=550)

F 6 あなたがお住まいの家は、いつ頃建てられたものですか。建物の一部を増改築されている場合には、主な部分についてお答えください。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	(%)
戦前	50
戦後～昭和35年の間	11.0
昭和36年～昭和56年	51.9
昭和57年以降	320
合計	100.0
	(N=550)

自由回答

性別	年代	自由回答
女性	40 歳代	役場の人には大変お世話になりました。ボランティアの人達も手伝いに来てくれましたが、うちはそれほどでもなかったなので、お気持ち感謝しております。今後、又同様な地震がくれば家がこわれてしまうのではないかと不安がすごいです。このような場合になった時のマニュアル本(冊子)にして出してほしいです。
男性	60 歳以上	県議会、国会議員のパフォーマンス的な災害現場視察は遠慮してほしい。自治体の災害対策本部の業務に著しい支障をきたすところがある。
女性	30 歳代	電気や水道の復旧状況など、くわしい情報がほしかったが、防災無線はよく聞こえないし、給水車のアナウンスの車は速度がはやすぎて。場所がわからないまま、車が通りすぎてしまったりして、全然役に立たなかった。町の中でも、電気も水道も大丈夫な所とだめな所では、今回生活状況に大きな差があった。役場に問合せをしたくても、電気が止まっているのではなかなか思うようにいかない。情報がすみずみまでいきわたるような、広報の仕方を考えてほしい。緊急の場合の対応の体制が、きちんと整備されることを希望します。もうこないとかをくくらないでほしい。災害は地震だけではないのだから。
男性	30 歳代	今回の地震で私は矢本町に住んでいるので、復旧作業に警察、消防、陸上自衛隊、町の人たちは大変よくやっていると感じたが、私たちの町にある航空自衛隊はただヘリコプターで空を飛んで見ているだけ。2000 人もいる中で復旧作業をしていたのはごくわずかで町でもほとんど見かけなかった。(そう思われても仕方が無い位です)何のために自衛隊があるのか、自分の住む町に必要なのか、このような時に出勤するのが仕事ではないのかと非常に腹が立ちます。みんなが苦しんでいる時に助け合うのが基本だと思う。これは大問題です。すぐにでも変える必要がある。
男性	50 歳代	修理代などの資金援助をしてほしい
女性	60 歳以上	私は 72 才で一人暮らしなので、長男が仙台なので、電話がつながらなくて本当に困りました。一

性別	年代	自由回答
		番初めに(警察の方が)来てくれて、本当に安心しました。26日には3回くらい見廻ってくれて長男達が来るまで、心配してくれて本当にありがたかったです
女性	60歳以上	私達の町の防災無線はとてもきこえないので、きこえられない。各家につけてほしいと思います。
男性	60歳以上	1月31日午前6時18分に震源仙台湾鳴瀬町(震度3)が発生した。その後2月1日にも震度1、鳴瀬町だけ。2月2日午前2時20分震度1、その後も度々軽い地震があいついたにもかかわらず(その後5月26日午前6時24分にも地震があって)この様な経過を考えると、今回の地震とは関係が無かったのが疑問に思っている次第です。
女性	50歳代	地震国日本とい事を大きな事と考えて、国、県、町、皆様の助け合いとい事を今一度考え直してほしい！なぜ？家が倒れ、墓が倒れ、農地が畑が道路が個人のことは個人ではあまりにも大きすぎる。最低でも国内の被害・災害は助け合い？被害の状況に合わせて個人を救済してください。(地震、水害、火災・・・等)そうすることによって、自殺者、精神的な病がなくなる。それでないと思いませんか？
男性	60歳以上	行政の今回の取組については大変親切によくやって頂いたと感謝し有り難く思っています。一頃までは治山治水は県、国の役割であると教わっていましたが、5月宮城県沖地震で地域の山崩れの視察に来た官僚の話では地元の負担も求められる様な話を聞いて、これでは充分な対策は望めるのかと疑問に思いました。それぞれの役割をしっかりと自覚し、これ取組む事を望みます
男性	40歳代	ヘリコプターの音で、町からの話がわからなかった。町内のスピーカーを増設してほしいと思います。
女性	60歳以上	連日、ヘリコプターの音で、屋外無線放送が聞きづらかった。出来れば家内に防災無線があればよかったと思った。そのために外に出なければ聞こえなかった。屋外無線放送は人体によくないと思った。
女性	40歳代	防災無線の放送が雨やヘリコプターの音にかき消され、体育館へ避難しなければならない事を周りの人から聞かされたので各戸にあればいいと思います(屋内設置)もし、その放送がきちんと耳に届いていれば、町の方の放送は親切でわかりやすく適確でとても良い事だと思います。
男性	40歳代	山からの落石の相談をしたが、個人で対応するしかないと言われ、相談にもならなかった。
男性	50歳代	給水の為、3時間も雨の中ならんでまったが、赤いサビ色の水で飲料できなかった。電話、ケイタイのつながり具合の状況について情報を伝えてほしかった。防災無線の有効活用(きめこまやかな情報)が必要である。車がこわれて、交通手段がなくなってとても困った。住宅再建の支援をお願いしたい。特に低利融資の申込み条件の緩和が必要。
女性	40歳代	建築家の方が2人一組で調査に来ていただきましたが、まだまだ余震が続いていて、調査をしていただいた時より壁のヒビが広がっているようです。ある一定の期間を置いて、もう一度再調査をお願いしたいと思います。
男性	50歳代	県知事の姿勢に問題あり、阪神大震災並だったら、ブラジルからすぐ帰ったと言っているが、知事は宮城県の知事である。県民をどう思っているのか！怒りを覚える。パフォーマンス知事はいらない。
女性	60歳以上	我が南郷町は町長が不在であっても、助役は災害情報を良くつかんで無線で多く伝えてもらったが、一般家庭では被害の時対応が良くできず、悪徳業者から高金の請求があり、支払ったケースもあったが、処理方法も行政で押さえてほしい。
男性	40歳代	5月26日、ヘリがうるさく防災無線やラジオが聞こえなかった。
女性	50歳代	今度の地震で避難をしまして体育館で一夜を過ごしましたが、皆さんのあたたかい心遣いに変えて感謝しました。町の行政は良く行き届いた活動をしていただいていると思います。県、国に対してはもう少し考えていただきたいと思います。まだ、余震も続いているので毎日不安な気持ちで生活しています。
女性	60歳以上	町の無線の放送やボランティアの対策はとてもすばらしかったです。
男性	60歳以上	今回の地震による死傷者が思ったより少なく、特に死者がでなかった事は不幸中の幸いです。しかし、タンスや家具が倒れてきて、子供が死んでしまったと思ったとか、きわどかったとか危険がいっぱいでした。今後の対策としては、生命の安全対策として、家具の固定化や落下物の有無の確認など行政的に徹底すべきだ。更に道路沿いの石塀やブロック塀の解消対策を行ってほしい。限定された地域(5~6町)ですが、被災地の救済のための国の支援なくしては復興が財政的制約で遅々となることを心配している。局地激甚災害の指定していただき強力な支援を願っています。
男性	50歳代	防災無線の音が強すぎて、TV、ラジオのニュースが伝わらない。農家の冷害の事まで防災無線で流さないでほしい。町の対策が遅い。自衛隊の出動が心強かった。
男性	50歳代	災害状況を早急に把握して仮設住宅の設置を早急に設置して頂きたい。

性別	年代	自由回答
女性	60 歳以上	何をすればいいのか、わからなかったの、具体的に相談する所もわからなかった。各戸にまわって要望だけ聞いた。アドバイスをしてほしかった。水道が出なかったのに 5 日 給水車は一度しかこなかった。給水車はスピーカーを使って知らせしてほしい。土地のある家の場合、プレハブの住宅など、すぐに住めるようにあっせんしてほしい。どこの家でもお金が必要です。
男性	60 歳以上	1 回目の地震の後にテレビを見て、津波の心配と余震は一回目より大きな余震はないとの情報を聞き、安心して乱雑になった食器類等、かたづけ後、回りの様子を見るとほとんどの家が 3 時頃まで電灯がついてた。1. 行政へ都心に比較して情報が遅い 2. 突発災害時の対応をもっと早くして組織図の見直しを図ること 3. 広報の利用が少ない。この機会の体験を踏まえて、きめ細かく報告してほしい。行政だけでなく、一般の人々に災害時対策協力者を要請する。
女性	50 歳代	断水中に給水車が一度も来なかった。ニュースでの電気復旧の発表が正確ではなかった
男性	60 歳以上	今回の地震で町が調査に来たのが地震発生から約 4 日後だった。しかも、団地の住人が役場へ行くまで全く連絡などがなかった。たしかに、被害を受けたのはこの団地だけではないが、被害の調査など対応が遅いです。私は現在、愛知県に住んでいるが、東海地震の対策が進んでおり、私も地震の用意はできるのではないのでしょうか。私の両親は精神的、肉体的にかなり疲れています。もっと町民に情報を提供し、これから国、県、町はどういうことをしていくのか、回答を待っています。こうしている時も庭の陥没は進み、家は壊れる危険が高まっています。早く対応策を出し、町民を安心させてください。
男性	60 歳以上	低金利での資金の貸し付け。
女性	50 歳代	地震による被害に対する救済の充実を早急にしてほしい。各家庭、何らかの被害があるので、収入のない人を中心に救済してほしい。
女性	60 歳以上	防災無線で放送する内容が、はっきり聞き取れなかった事が公報で電車の運転状況を流してほしい。避難場所の安全性を再確認してほしい。
女性	30 歳代	町での防災無線を使った放送は何を言っているのか全然聞こえず役に立たなかった。今回の地震で、自宅の瓦が全部くぎ打ちしてない事が分かった。「公庫の規定通りです」というふうに言われ、手抜きでは？疑問を持った！！くぎが打っていないところがずれたので、全部打ってあればずれることも無かったの、詳しい事をどこで聞けばいいのかわからない。
男性	40 歳代	地震で家をとりこわした費用も、ばかにならないのである程度、保障してほしい。避難所にお昼の給食など、あたたかい料理をだしてほしい。
女性	50 歳代	鳴瀬町の住人ですが、緊急時とはいえ、町の職員の決断・責任の無さが目に余る
男性	30 歳代	もう少し行政からの連絡がかんたんにきける様にしてほしい。
男性	60 歳以上	町の防災計画による恒例の訓練は極めて順調に行われていたが、下部組織の行政区の対策組織が全く機能しなかった(被災地でもあったため)小生も役員ですが、役員のほとんどが高齢者。町の対策本部について・・・設置は素早かったが、TEL を取り継いだ係りが対応できず、2～3 回上の指示を得なければ返答できないことが大部分であった。電気・水道・電話など、一時的に故障があったが短時間で復旧したのは良かった。また、翌日には県道、翌々日には町道が自衛隊の派遣隊がガレキを除去してくれ、3 日目にはライフラインが全て復旧したのはありがたかった。しかし、予想される宮城県沖地震を想定する時、大都市に救援の目が向けられるのは当然で、集落が散在する地方町村では、自力で対応する方策を講じなければならないと思った。救助物資の提供申しでががあったが、希望品目の調査が行政区に指示された。震災当日から被災の多くは屋根ガワラと、地場産品の岩材を使用した建物と塀が倒壊が甚大だったことは明白だった、ビニールシートなど概算で 1000～2000 くらい即時発注すれば、家具・寝具の類を守ることができた。被害調査が不十分 ガレキとゴミで道路をふさいでしまった。
女性	50 歳代	主要道路は早期に沈下場所等にジャリなど入れ、応急処置されているが、段差があっても可も処置されていない箇所があるので、危険です。もっとチェックが必要。
女性	50 歳代	1. 津波訓練はしていたが、地震に対する訓練があまり出来ていなかったと思う 2. 災害の時、他市町村との相互援助と、いか、すぐに対応できる状況があると良かったと思う災害地域全体に対しての炊き出し等・・・災害の大きさにもよりますが、大きい時はその市町村の行政だけではなく手が回らないと思った。ボランティアの方々もたくさん参加してくれたみたいですが、行政の仕事に対してのボランティアで各個に対してはどうなのかなと思いました。その地区の住民は、被害の大小にかかわらず受けたショックは同じなので、避難した人だけうんぬん・・・というのは不合理かと思います。3. お年よりだけの家庭で、家屋が崩壊した方々には、本当に立ち直れる様な救済の方法があれば・・・と思います。やはり地震国なので、皆が地震に対する意識を見直しする必要があるのかも・・・。
女性	20 歳代	宮城県沖地震の調査を更に詳しくしてほしい。
女性	60 歳以上	1人暮らしで身体障害者 1 級なので、もう少し早く町の方で見回ってほしかったし、相談に来てほし

性別	年代	自由回答
		かった。でも、1週間ほど娘の家に避難していた。家には行先をかいいて、娘がちかくに嫁いでいたので。
女性	60 歳以上	昭和 56 年に建てた家でも玄関付近がこわれ、瓦屋根も傷んだのでトタンにかえなければならない。農家なので、作業部屋等、三棟が全壊したので秋の取り入れも心配なので、建築資金を無利子で(長期)貸してほしいと切にお願いします。
男性	60 歳以上	町職員も忙しいと思うが、もっと見回りしてもらいたい。余震で被害を受けるかも知れません。
男性	50 歳代	対応がおそい。もっとも県・町の長は不在。
男性	60 歳以上	今だに余震が続いています。昨日の朝も震度 4 の地震がありました。恐怖と不安の日々です。地底 10 km と極浅い地震の正体はいったいどういうものなのでしょう。このあたりの情報が少ないと思います。建築 40 年台の木材家屋の強度はこの程度だったのかと残念に思っています。建築基準法がどれ程生かされたのか。きたのか？それにしても農業、農村の精気の無さと災害が何らかの関係有りそうでなりません。
女性	40 歳代	電気・水道がとまった状態だったので、防災無線だけが頼りでした。とても助かりました。ただ、4、5 日がすぎて落ちてきてきた頃、各相談会などの日時などのお知らせが朝 9:00 というのは、おそすぎと思いました。仕事(共働き)で、自宅近くにいないければ、とても聞ける状態ではないからです。個々にご案内等が回ってれば別ですが・・・？新聞の広告等などでも回りましたが、見なければ意味がありません。せめて、朝 7:00、夕 7:00 くらいにも流した方がよかったのでは？
女性	50 歳代	地震直後、行政等にのぞむことができないので、近所の人達に無事をたしかめ合うことが何より一番です。夜、皆電気等をつけてもらって事など安心につながります。それから防災無線の放送でもあれば良いと思います。
女性	50 歳代	壊れた家具やブロック等の処理の仕方への対応が遅く、どうしてものかとまどった。道路の補修が遅い。
男性	50 歳代	情報伝達を早く、被災後の指示があやふや。
女性	40 歳代	水の配給の時、すぐ在庫がなくなり道路がこんでいて水の補給にも行けない状態だったので、その辺の所を改善してほしい。国道の修理は早いのですが、県道・町道の修理はいまだにおこなわれていないので早くしてほしい。
女性	30 歳代	全壊の家で 100 万円支給すると言っているが、安くないか。全壊の家はすべて失ったも同じことで、前日は全壊した家の人々が火をつけて自殺したと報道された。(近所でした)とてもショックだった。特に高齢の人は、後片付けなどで、皆やつれているので何とかならないものなのか。ボランティアなどは来ているが"心のケア"までは来ていないようだ。
女性	50 歳代	災害物資をもっともっと早く支給してほしい。余震で壁が浮いてきているので、更に強い地震が起きたら、家屋の中に居て安全なのかどうか、早めに診断してほしい。行政の調査をうわべだけの点検だけではなく、点検→指導→被害者の取るべき行動を指針してほしい。
男性	50 歳代	すぐに電気、ガス、水道、道路等の巡回して初期対策してほしい。
男性	50 歳代	災害ごみ(燃える物)の処分方法について、法律の問題もあるが野焼きで処理などを考えないと、今後処分の費用を国県町で出せるのか。
女性	60 歳以上	交通の便の良い場所に県営、町営の住宅を充分に建設して欲しい。
女性	50 歳代	住宅だけでなく作業場なども全壊した為、とりこわししなければならなくなりました。そういう事にも助成金を出して欲しい。
女性	20 歳代	自宅をたてかえたので、防災ラジオがついていません。新しくたてた住宅にもそなえて欲しいです。行政の情報が伝わりにくかったのが残念です。
男性	40 歳代	家の外壁にヒビが入っていますが"注意"や"危険"といった指導を受けていません。しかし、シロウト目に見ても"危険"です。ベランダの支柱は 3 本中 2 本落ちて、人が立てない状況です。行政は個別の診断をもっと詳しく行ってもらいたいです(8/10 現在)こちらからお願いするのではなく、国・県・町がもっと行動をおこすべきです。いまでも他人事で災害のニュース等を見ていましたが、自分の身にふりかかってみて、いろいろ考えました。自衛隊の応援も 2~3 日は見ましたが、最近は見えてません。まだまだ周りの家ではブロック壁や瓦の残りが残っています。それらをかたづけているのは住人達です。人が足りないのに、これから大変ですが、アンケートにより何か変化があればと思います。解析等ががんばって下さい。
女性	60 歳以上	防災無線がききとりにくい。
男性	60 歳以上	防災無線が家の内でも聞き取れる放送にして欲しい。
男性	60 歳以上	国も県・町もよくやってくれてるので、ただただ感謝あるのみです。

性別	年代	自由回答
男性	50 歳代	修復の為の支援、制度資金の手当等早くしてもらいたい。直後の対応で自衛隊、警察署員の行動に感謝したい。河川堤防損壊に対し、国土交通省の 24 時間対応、復旧活動に感謝する。直後の耐震診断について、チームによっては疑問に感じる診断を行ったチームがあった（不満）もっと真剣に適切に調査判断をしてほしかった。復旧に向けた今後の対応、指導を、廃材への対応には感謝する。
女性	20 歳代	宮城県知事が上京したときの映像をニュースで見て、前向きに検討中とか言ってたあの人は本当に被害の情報が入っているのか？何のための政府かもっと考えてほしい。困ってるんだから、すぐに対応してほしいし、もう少し早め早めに援助とかできないものなのか？できないなら行政なんて意味ないし、上に立つ必要がないと思う。上に立つ人があーゆー人な日本でおかしい。被害地に来てもっと見て行ってほしかった。
男性	60 歳以上	地震の予知についての研究がおくれていると思う。地震がおきてから前述の様な色々な質問がなされているが、それよりもっと正確な予報の方が私達には必要である。
女性	60 歳以上	被害状況をもっと丁寧にしらべて欲しかった。
男性	40 歳代	一般民家の耐震化に関する補助制度の充実を望みます。国・県・町の一体化した法整備の上、時限制度ではない永久的な仕組みにしてもらいたいと思います。
女性	30 歳代	災害に対して、国として、全然頼りありませんでした。被害の調査をしに来たから何だというんでしょ。その後、何もなしなんです…。かたづけをしているのもつかれてしまって…。水だけいただいても…。と思いました。お金も無くどうやってくらすか考えただけで泣けてきます。他国の方に自衛隊派遣など、私達にとってはどうでも良い事でした。自国の災害にはどうでも良い、たいした事ではないのでしょうか。
男性	60 歳以上	いち早く激甚災害の指定を受け、倒壊した建物等の跡片付けに安全を期して頂いたことは何より有り難く感じています。又、各地からのボランティアの救援に夜給水活動や給食活動等、本当に有難く感謝の気持ちでいっぱいです。これからの要望ですが、倒壊建物等の跡片付けや危険箇所等の除去はスムーズに進んでも、これから先の生活や再建等心配することがいっぱいです。再建等の資金、生活費等の援助等どの様になっているのか具体的に早く明示して欲しい。この先、更に大きい宮城県沖地震が近く起こると確定的に予測されており、耐震構造の新築又は補強工事したくても、農家の場合、住宅だけでなく、農用建物、機会等構造物も総じて壊されているので、大変な資金がいる。そうでなくても農業で飯が食えないと目切れをつけようとしている人も多い中、この地震災害、国・県等の抜本的な対策を強く要望するものです。
女性	60 歳以上	こわれた家の修理・自宅の耐震補強の費用が頭いたいところですが。年金生活ですのでどうすれば良いかと思う。
男性	20 歳代	自衛隊の派遣はとても助かった。日ごろから地震に対して危ない家や建物を把握していると良いと思う。地震後に調べるのではなく、いつも調べてほしい。
女性	40 歳代	突然の地震で改装せざるを得なくなり、色々な面において、大変こまっております。国、県、町の行政に補助金をお願いしたいと思います。
女性	40 歳代	災害の補償について気になった。町や農協等の査定巡回が遅く感じられた。
男性	60 歳以上	地震後の粗大ゴミ処理入れに時間制限や、休日中断等、被災者の立場に立って、受け入れを容易にすべきではないか。24 時間受け入れる位の配慮が必要だと思う。
男性	40 歳代	自衛隊の作業内容に疑問有り。道路沿いだけで終り、内部の方ももっと早く、復旧が出来たと思う。
男性	40 歳代	防災無線がききづらい。
男性	40 歳代	ほんとうにありがとうございます。
男性	50 歳代	町の行政はあまりよくない。地震直後の防災無線放送が遅く、その後の放送も防災訓練しているのか？たがわしいほどなしのつづて。国・県が早く町などにアドバイスをやるべきだ。（へりを飛ばし、国・県の職員を応援によこすべきだ）
男性	60 歳以上	1.宮城県沖地震（53 年）規模の地震が数十年内に起きる可能性ありと報道されているが、今回の震源地が全く予想されていなかったように考える。もう少し、可能性ある地震予報を報道、又は研究されることを希望する。2.震災地に対する支援費が少ないうちに思われる。再度、検討されるように望む。
男性	50 歳代	地区内の避難所に担当の町職員を張り付けてくれたので、町（災害本部）との連絡等がスムーズにいき、ありがたかった。水道が断水の時、給水車が来てくれたが、地区内にその事を知らせることがむずかしかった。広報車等とセットで行動してもらえれば、良いと思いました。
男性	60 歳以上	宮城県でも色々ありますが、地震対策を身近にやってほしいと思います。
女性	60 歳以上	町内の橋が（小野橋）通行止めになったので、交通渋滞がつづきました。一日も早く復旧する事を望みます。

性別	年代	自由回答
男性	60 歳以上	災害は忘れた頃にやって来るとい言葉がある様に、忘れた頃にやって来ますから、平時の時に町なり県なり国なりで時々災害に対する基礎的（基本的）対応を訓練しておく事が大事だと思います。
男性	60 歳以上	南郷町の行政の対応は早く良かったと思う。廃材処分、仕分け場所のとりくみ。
女性	60 歳以上	地震のことを研究している学者さんについて思うこと。いざ、地震になった時、何の役にもたないようにみえるのですが、地震予知とい言葉はあるようですが、実際はあってなきが如し。ああだこうだとゴタクを並べても、机上の空論としか思えない。地震のあとにテレビに出てくる学者さんがいますが、何かまのびしたカオに見えて仕方ありません。9月26日ごろに又、大地震があると学者さんは言ったそうですが本当でしょうか。それまでにいろいろ準備はしておきたいと思います。もしかしたら、当たるかもしれないと思ふ事にして、失礼申し上げました。
女性	50 歳代	町ではいろいろな方向で早急に対応してくれたので、特にありません。鳴瀬川の堤防の強化。
女性	50 歳代	地震保険の被害の大小であてにならず、私どもも二年後には年金生活に入ります。又くるであろう宮城県沖地震に備えて何らかの形の補助金制度でもあったらと思っています。
女性	40 歳代	今回、震度6強弱であまりにも被害の差ありすぎです。震度の判定が疑問です。
女性	50 歳代	ボランティアの方にこわれ物等を片付けて頂き本当に感謝しております。又、町からも食料品とか日用雑貨等、避難場所に毎日用意していただき、有難うございました。ただ、私の夫の体が思う様に動かせないし、いざという時に逃げられないので、余震がある度に、不安におびえて、いまだに家に落ち着いていられない気持ちです。心のケアをもう少し大人にも必要かと思ひます。
男性	20 歳代	災害時の放送が聞き取りにくい
男性	50 歳代	農村地帯なので、行政より地域社会での助け合いの方が早く助かった。小さな町でもあり、行政からの救援にも限界があると思う
女性	40 歳代	防災無線がとても聞き取りにくかった。町の中でも各家庭に聞こえるようにしてほしいと思いました。
男性	50 歳代	町の地震後の対応は素早く対応したと他町から評価している。町長不在でも対応が取れた。連続地震で町の対応は良かったが、県、国の対応はケガ、死亡した人が発生しない動きが遅いと感じた。年に1度位しか体験しない地震が24時間以内に4度も体験すると精神的にまいってしまう。不幸中の幸いはケガと死亡した人が少なかった事です。家がつぶれた人もつぶれなかった人も家の中はメチャクチャと家は外見上良くみえても、ほとんどの家が傾き、次の地震が来るとあぶない。家を建て替えたいが、予算がない。国でなんとか考えてほしい。働いて必ず返す。
男性	40 歳代	家が全壊・半壊にならなくても、外壁も内壁も全部直さなければならない状態で、大変な状態です。もっと細かく一人一人の一軒一軒の救済処置をしていただきたいと思う。これから1千万円もの借金をして修繕していかなければなりません。先の事を思うと胃が痛みます。何とかならないものでしょうか。
女性	40 歳代	防災無線が聞き取りにくく、何を言っているのかわからない。公道に面したブロック塀の片づけは自衛隊の方がやってくれたが、ちょっと中の方は片づけてくれず、女、子供の家庭ではどうしようもなかった。義母（78才）がPTSDのような感じになって、町の保健婦さんに相談したら「いつもそばにいてあげなさい」といわれたが、片づけもしなくちゃ、仕事もしなくちゃとなかなかできなかった。こんな時、話をきいてくれる人や、ただそばにいてくれるボランティアの人がいたら助かるなと思った。
女性	50 歳代	地震当日、多賀城からきている自衛隊員が矢本町内のコンビニで食料品を購入していました。町内の食料品が不足するかもしれないから、多賀城で購入してから矢本に入ろうといふ言い合いがなぜできないのでしょうか。本当に災害救援に当たるといことはそこまで気を使うことではないかと思っています。特別国家公務員として、そのくらいのモラルは持っていてほしかったです。
女性	40 歳代	我が町は全壊です。行政の対応は非常に長く遅いと思います。今後の不安が沢山ある中に、防災無線も広報もなまぬるく、見まわりに来たのは4日後位です。融資面においても、自営業、農業、平よりは不利で、それらにたずさわっている方々は、公務員。全て、私たちの不安とは別です。特に見舞い金においても、自宅を新築後に支払われるとい事はどうい事ですか？仕事を休み、無収入の状態で作業している身は、行政は本当の苦しみを知らないと思うし、全て不親切。精神的にも、自殺者等の二次、三次災害がおきないように、スピーディーで細かい気配りのある行動をしていただきたいし。
女性	40 歳代	私も家の屋根は傾斜があり、瓦がだいぶ被害にあいました。そのため落下もあったので、町の方に頼みましたがダメでした。町の被害調査が遅い。全国で自然災害に合った人達が沢山います。地震・水害等々、外国には数億円も援助して日本国民が非常に援助して欲しい時は貸付をするのですか。老後の生活だけで大変であるのに、お金を借りて返金できるわけないと思います。日本の政治家の皆さん、日本国民の事をもっと考えて下さい。

性別	年代	自由回答
女性	50 歳代	7 / 26 当日、ヘリコプターの音で防災無線の放送が良く聞き取れなかった。又、その音は不安な気持ちをもっと暗い気持ちにさせた。配慮をして欲しかった。
女性	60 歳以上	代 発生直後、兄弟の家が半壊だったので、公表資料や被害状況を町側で把握する必要があると思い電話させた所、職員は名前も言わず「自分の家は自分でやれ」と強い口調で言われた。再度電話し、被害把握のためとの理由を話したが、やはり名乗らずにただ聞くのみで、最後に「こちら(役場)からは電話しませんから…」と言い、当方の名前、住所を確認する事すらしなかった。後日、この件を申し入れたが、ただ頭を下げるばかりで全く住民の事に意を介さない態度である。(矢本町役場)自衛隊に対する災害派遣要請は県知事等一部の職名が法により定められているものが、近傍(河南町)からの要請に対しては、自分達で自衛隊と直接交渉する様、指示された」との事で、平素からの災害に附随する諸行動、権限のマニュアル化がなされていないと痛感させられた。又、自宅被害には全く手を付けず、被災者の救助等に励む隊員に対し、国からの作業員が行政の指導下に入ったとばかりの態度であった。例、被災者「自宅の塀が倒壊しそうで危険です…。」役場「そんな事は近くに居る自衛隊に頼め」ちなみに、災害派遣では「公共の秩序維持、人命救助」の 2 点しかできない事を全く知らないか、無視している。態度も極めて横柄で住民として情けない。
男性	50 歳	上 町は後から考えると色々問題点もでてくるでしょうが、それなりに対応してくれたと思います。近所では 1 名もけが人がありませんでしたので、幸いでした。老人の一人暮らしの所を見まわるようにと町から民生委員(妻がその職にあります)に要請があり、女一人では不安なので私も同道しました。(第一回目の地震のあと3 時ごろ)田舎なので隣近所のつきあいがよいので、問題があればその職にある者に連絡があると思いますが、一人暮らしの安否の確認、連絡方法に一考を要すると感じました。
男性	60 歳以	防災訓練はするのですが、実際の場合、集合場所があぶない場所だという声が多くでているが、「あくまで訓練。実際は各家庭で安全な近い場所への避難を…」それは分かりますが、多くの人が一度に集まる場所を決めるのは大変ですが、「あくまで訓練」なのに訓練なのでしょう。実際、役に立たない場所へ集まる事は無意味と思いました。消防団の方々の活躍はすばらしかったと思います。分からない中、瓦の応急処置をして下さいました。消防団のような組織は重要。
女性	30 歳代	断水時刻の放送は役立った。破損した家財道具の用材の処置がスムーズにできた(放送による案内) ボランティアさんの応援も大変助かった。今後の復旧に被害の程度に応じてさまざまな援助を考えて欲しい(減免税の処置、助成金)
女性	30 歳代	防災無線が場所によって聞こえないので、室内で聞こえるようにしてほしい。耳の遠い年寄りがいるので防災無線だけでは不安なので、何らかの対応策を考えて欲しい。電話がつながりにくかったなので、つながりやすくしてほしい。日中は、年寄りしかいないので不安が残る。(今回の地震はたまたま家族がいたのでよかったが、日中年寄りだけだったらパニックになっていたかもしれない)
男性	60 歳以上	災害にともなう廃材等は今のところ無料で処分できますが、地震のために家がゆがんでいるので、来春にでも家を建て替えたいと思う。その時の廃材等の処分費用を無料にしていただけると助かります。近くまで給水車がきていたようなのですが、きていたことがわからなかった。こういう時こそ防災無線で今どこどこにいると放送してほしい。
女性	40 歳代	新しい情報の提供。水・電気・道路等のライフラインの早期回復とその情報。破壊破損された廃材・ブロック・石等の処理。雨もれ対策への援助。
男性	50 歳代	今回の地震で一番助かったのは、燃えないゴミ(ガラス等)粗大ゴミの処理です。
女性	50 歳代	建物の破損の業者がわからないのでその情報等を！！
男性	40 歳代	いつもの事ながら、防災無線は全然聞こえない地区なので、なんとかしてほしい。何度でも区長を通じて話してあるのだが(南郷二郷地区)。役場職員の質の悪さにはあきれる(南郷町)防災無線が聞こえないので問合せたが(役場へ)何を言いたいのですかと(断水との事なので給水車はと聞けば考えてませんと答えなど)あきれる事が多い。日本一の激震地の町長が(ブラジルへいった)知事や国会議員よりおそく帰るとは、いくら公務とはいえあきれる。自殺者が出るほどの災害なのに。役場職員の働きの悪さもあきれる。物事の決断がおそく、業者にしかられてから働くようでは、再教育を一日も早くしてほしい。
男性	60 歳以上	数年間に下水道工事が続いているが殆ど地盤沈下したが工事に手抜きはないのか。

性別	年代	自由回答
男性	60 歳以上	町の無線が取材や防災ヘリコプターの音で消され、ほとんど聞こえない状態でした。特に被害の でている地区だったので、情報が無いのは大変でした。ただ、ふだんから聞こえにくい地区では あったのでこれを機会に増設してもらえればと思います。又、給水車にマイク等を設置し到着した 事を教えてもらえたら・・・と思いました。給水車に予備のポリタンクを配備してもらおうと今回のように 突然の被災で準備ができていない人のためになるのではないのでしょうか。宮城県沖地震も経験し ていますが、電気・水道が止まる事がどんなに大変か感じました。田舎だからこの位の被害です んだ。冬じゃなくて良かったと思います。情報がいちばん大事です、ヘリコプターの情報も大切で す。ラジオの情報もでしたが、他町からの友だちのメールが一番の情報源でした。
女性	30 歳代	NHK朝 7時のニュースで、1 回目の地震について伝えていた。明日 2 時まで 5 弱の余震があるか もと伝え終わるか終わらないうちに 6 強がおきた。もっと的確に地震情報をお願いしたい。
男性	60 歳以上	7月 26 日は午前 7 時 13 分の地震は今まで経験したどの地震より縦揺れも横揺れも格段に強く 感じられた。前回 25 年当時より揺れが大きく、強烈で時間的にはみじかく直下だなと感じました。 被害も相当大きく全部補修すると 1 千万円位かかる見込みです。早急に少ない利率で融資してい ただければ幸いです。
男性	60 歳以上	町の対応は他市町に比べ、やや遅れ気味。
男性	60 歳以上	災害復旧対策に全力を。国や県、災害被災町に対し補助、援助を。宮城県沖地震対策を早くこ と。東海地震と同様に予想される。災害種別毎の対応マニュアルを国から一市民まで行きわたる ように、町に至っては対策本部、役場職員の対応が混乱してしまっていた。
男性	60 歳以上	地震に対する情報が少なく、とても不安でした。発生後、どうしたらよいかわからない。宮城県沖地 震も来ると言われているので、とても心配です。いまだに余震が続いているのにもかかわらず、町 からもくわしい防災対策も言われておらず、個人でするしかないのか？という気持ちです。
女性	30 歳代	皆にこころよくしてくれてこころよく食事も立派で何日でも泊めて頂き大変有難く思います。一人暮 らしの老人はおそろしいので、皆の居る所心強く大変助かりました。
女性	60 歳以上	災害に慣れている行政というのは無いのかもしれませんが、いろいろ不都合がありました。私の家 の場合、半壊だったのですが、全然安全点検等来なかったし、親が役所に半壊の申請に行きそ れから確認に来たり、役所の方も右往左往という感じでした。
女性	60 歳以上	災害復旧にかかる資金の貸付。
男性	30 歳代	地震保険や家財保険に入っていなかったのが、修理等の費用のメドが立たずに困っている。保険 に入りたくても農協で年一回まとめて払うようになるので、それでなくても秋の収穫時にお金が入 るのは少しなのにとっても払える状況ではなく、保険等は無理、少ない年金ぐらしでは苦しい。国 がもっと農業をようこそしてくれ政策でないと困る。地震後も行政はボランティア等、いろいろやっ てくれるが、一人ぐらしの老人等はその事なおも知らずにいる。修理も出来ぬ家にいたら、次の地 震の時はどうなるのかと心配で、夜も眠れません。みんな疲労困ぱいして明日への希望がみえま せん。
女性	60 歳以上	道路陥没による家具への二次災害が大きかった。
男性	60 歳以上	1.信頼できる住宅診断の実施と通知。倒壊した家具類の整理が終了したあと、安全に生活を継 続出来るかどうか最大の関心事。家の基礎や土台、床下の地割れなどの診断を火急に速やか に行ってほしい。検査の眼が、屋根瓦、壁の亀裂等極めて表面的な面のみ集中しがちであるよう に思う。家の傾き等は計測器等に測定し安全度を診断してほしい。2.災対の緊急処置の優先順 位が不明確。ライフラインの確保は大切。しかし、これはそれぞれの担当が活動できる分野、ある いはちょっと迂回、片側通行で対処出来るが、今地すべりが起こりそうな緊急支援要請には全く聞 き耳なしの状態。無念やるかたなし。
男性	40 歳代	町の対応はやはり現場に密接しているので、私達の要望にできる限り、応えてくれていると思 います。県、国の対応については、アメリカの様な危機管理システムを確立し、災害現場の実状を リアルタイムに把握し、より有効な対応をすみやかに行える様に要望致します。
女性	60 歳以上	行政はもっとしっかりしてくれ。
女性	40 歳代	町の対策があまり取れていない。
女性	40 歳代	私の地区には(小さい地区のため)防災無線がありません。その為、聞きづらく、町に問合せをし たりしました。できればとりつけてほしいと思いました。避難場所をもう少し設けてほしいと思いま す。堤防が切れた場合、交通手段として、地区毎に小船などあった方がよいのでは。万が一の事 を考えてのことです。
男性	40 歳代	自衛隊のグロック塀片づけが良かった。放送局は控えるべきだ。ヘリコプターが終日上空を飛ん でいて、ウルサイし気持ちがいらいらする。
女性	50 歳代	防災無線がききとりにくい。風向きによってはまったくきこえない

性別	年代	自由回答
女性	40 歳代	道路の破損がずいぶんとみられましたが、下水工事の時いつも思うのですが、工事業者にまかせきりの様に見受けられます。行政の方々は机の上でだけの仕事ではないはず。もっと現場に出て地盤の調査をしたり 仕事上の手順を見てまわったらどうですか。はっきり申しまして、土木業者は利益にとらわれ手抜きの仕事をしている方が多いのではないですか。我々女性でもこの様にすれば、これ位の地震ではこわれないはずだと位はわかります。こわれた所をみると、どの業者が工事したのかははっきりとしたはず。これからはきちんとした仕事をしてもらいたいです。少しでも税金は払っています。町民一人一人皆々が安心して生活できる行政にして下さい。
女性	50 歳代	自衛隊の方が、道路に倒れた塀の撤去作業などをして下さったことには、大変よかったと思います。野蒜駅前に通じる県道が陥没がひどく、以前から歩道工事中だったこともあり 歩行者や自転車が通行するのに大変危険な状態になっているのに、地震後 20 日もたつ本日まで応急的な作業もしていないのは大変不満です。地震後、県で調査にきて石塀に「倒壊の恐れあり危険」と赤い紙を貼り「できるだけ早く対策して下さい」と言われたが、自分でできることではなく 業者を頼んでお金もかかることなのに、被災者に対して無神経だと思いました。
女性	30 歳代	道路の整備を早くしてほしい。水道の復旧。
男性	50 歳代	とにかく あらゆる面で対応が遅いと感じた。
男性	60 歳以上	水と食料はどこそこへ行けば有るといふアナウンスが必要 老人世帯の安否の確認 災害復旧の為に組織体が必要
男性	40 歳代	町の防災無線で放送された内容がよく理解できなかったことがあった。それは放送を担当した職員の発音(歯切れ)が悪かったことだと思う 発音のよい職員をあてるべきと思う
女性	50 歳代	防災無線のまったく聞こえない地区があるので、聞こえるようにしてほしい。水道・電気等が止まり復旧するまでの対応をはやくしてほしいと、いつまで止まっているのかといった情報をもっとこまめに出してほしい。
女性	60 歳以上	7月 27 日、土壁や食器の散乱した自宅を親戚の協力も得て、13 人で片づけなどをしていましたが、大きな余震が 2 度有り 皆で外に逃げました。しかし、地震直後とい事もあってか、上空でヘリコプターがひっきりなしに旋回し、その騒音によって、余震による室内のカタカタ音が聞き取れず避難が遅れるかも知れないと身の危険を感じました。余震の危険性の有る中、気をもみながら室内の後片づけをしている者にとって、この様なヘリコプターの飛行は被災地住民の安全を阻害していると考えられ、特にマスコミが各社でヘリコプターを飛行させる様な事が許されるのが疑問に感じます。報道の自由、取材の自由が被災地住民の安全を阻害してまで許されるとしたら、それは権利の濫用とも考えられ、代表取材にするとか、低空飛行を禁止するとか、何らかの規制が必要に思います。ちなみに、上記の同趣旨の内容をBPOに意見具申し、検討いただけるという返答を受けました。
女性	50 歳代	地震でできた廃材やごみの処理場をスピーディーに確保していただいたのは大変ありがたかったのですが、遠くからそれに便乗してやってきたトラックもかなりあったとか。町民のだけでも大変な量になったのに、後の処理で四苦八苦しているようですので、町民だけのパスポートでも発行すると良かったのではと思います。今回は浅いところでおきているために、1 km ぐらいの差でもかなり被害は違います。こういう地震の時は町一ヶ所の地震計で震度を計らないでほしいです。スーパーの看板設置のため数年前ケーブルテレビのアンテナとらことで集合アンテナになりましたが、それが故障、3 日程テレビがみられませんでした。ラジオで聞いたのとは違い、見ることによって町の惨状のひどさが数日たってわかりました。スーパーには連絡しましたが、ケーブルテレビの会社は不在だったということです。いつでも連絡を受けられるようにしておいてほしいです。今回、断水が何日も続いたところがあり大変だったとききました。最低でも水と電気だけはできるだけはやく復旧してほしいものです。これらがないと不安はさらに増幅されると思います。幸い私の住んでいる地区はライフラインは全然やられなかったのも、その点は救われました。今も余震は続いています。数日前は震度 3 があって不安で一杯です。山の方の人たちは雨が続けているので、土砂くずれが心配です。避難して生活している人たちもまだだいじょうぶです。はやくおさまってくれればと祈っております。8/15 有感 5 回(河北新聞より)7/26 からの有感 438 回。
男性	40 歳代	道路の陥没が下水道工事をした所に集中している。安易な下水道工事が被害を大きくしたように思われる。もっと慎重な計画をしてほしい。居住部分の被害については、いろいろな補償の対象になっているが、それ以外の被害についてはあまりなされていない。生活の一部をそれに委ねている場合には補償をしてほしい。
女性	40 歳代	一日も早く安心して、家族が暮らせる町づくりに努力してほしい。資金、金の援助をしてほしい。二度と災害を起こさないように対策に努めてほしい。

性別	年代	自由回答
女性	20 歳代	防災無線がヘリコプターで聞き取れない。朝早くとかもヘリコプターが真上を飛んでいた(7~8機)。いろいろな相談があるが、家のかたづけの為、出かけられなかったり家を離れられない為、おぐれてしまった。家が赤紙が貼られて危険だが、どうしたら良いかわからない。
男性	50 歳代	矢本町ではゴミ集積場を用意してくれたが、「瓦・ブロック」と「それ以外」しか分けていなかった。状況から見ても、もう少し分別できたはずだ。身近な鉄道(仙山線)や道路の状況が分からなかった。もっと(田舎とはいえ)情報をメディアで流すべきだ。断層がどこを通っているか知る方法はないのか？防災用品をどの家庭にも常備させるべきだ。
女性	40 歳代	報道のヘリが多すぎて、防災無線が聞き取れなかった。ヘリの音がうるさくて、精神的な苦痛になった。
女性	60 歳以上	地震でできた廃材やごみの処理場をスピーディーに確保していただいたのは大変ありがたかったのですが、遠くからそれに便乗してやってきたトラックもかなりあったとか。町民のだけでも大変な量になったのに、後の処理で四苦八苦しているようですので、町民だけのパスポートでも発行すると良かったのではと思います。 今回は浅いところでおきているために、1kmぐらいの差でもかなり被害は違います。こういう地震の時は町一ヶ所の地震計で震度を計らないでほしいです。 スーパーの看板設置のため数年前ケーブルテレビのアンテナということで集合アンテナになりましたが、それが故障、3日程テレビがみられませんでした。ラジオで聞いたのとは違い、見ることによって町の惨状のひどさが数日たってわかりました。スーパーには連絡しましたが、ケーブルテレビの会社は不在だったということです。いつでも連絡を受けられるようにしておいてほしいです。 今回、断水が何日も続いたところがあり大変だったとききました。最低でも水と電気だけはできるだけはやく復旧してほしいものです。これらがないと不安はさらに増幅されると思います。幸い私の住んでいる地区はライフラインは全然やられなかったのも、その点は救われました。 今も余震は続いています。数日前は震度3があり不安で一杯です。山方人たちは雨が続いているので、土砂くずれが心配です。避難して生活している人たちもまだだいいいます。はやくおさまってくれればと祈っております。8/15有感5回(河北新聞より)7/26からの有感438回。"
女性	50 歳代	道路の陥没が下水道工事をした所に集中している。安易な下水道工事が被害を大きくしたように思われる。もっと慎重な計画をしてほしい。居住部分の被害については、いろいろな補償の対象になっているが、それ以外の被害についてはあまりなされていない。生活の一部をそれに委ねている場合には補償をしてほしい。
男性	40 歳代	一日も早く安心して、家族が暮らせる町づくりに努力してほしい。資金、金の援助をしてほしい。二度と災害を起こさないように対策に努めてほしい。
女性	40 歳代	防災無線がヘリコプターで聞き取れない。朝早くとかもヘリコプターが真上を飛んでいた(7~8機)。いろいろな相談があるが、家のかたづけの為、出かけられなかったり家を離れられない為、おぐれてしまった。家が赤紙が貼られて危険だが、どうしたら良いかわからない。
女性	20 歳代	矢本町ではゴミ集積場を用意してくれたが、「瓦・ブロック」と「それ以外」しか分けていなかった。状況から見ても、もう少し分別できたはずだ。身近な鉄道(仙山線)や道路の状況が分からなかった。もっと(田舎とはいえ)情報をメディアで流すべきだ。断層がどこを通っているか知る方法はないのか？防災用品をどの家庭にも常備させるべきだ。
男性	50 歳代	報道のヘリが多すぎて、防災無線が聞き取れなかった。ヘリの音がうるさくて、精神的な苦痛になった。
女性	40 歳代	防災無線が聞き取りにくいので、内容が分からない事が多い。(今回の地震以外でも...)有線放送の方がまだ良かったように思いました。
男性	40 歳代	災害復旧を早急に行ってもらいたい。
男性	60 歳以上	地震の後の対策などをもっと急いでしてほしい。交通や道路などを直してほしい。
女性	50 歳代	自衛隊の皆さんのお陰で、大変に助かりました。
男性	60 歳以上	防災無線が聞き取れませんので、何を伝えているかわかりません。
男性	60 歳以上	耐震診断の結果について予算、早急に願います。
女性	60 歳以上	県の対応がおそいのでは？もっと早く対処すべきではなかったか。事前に地震がくるとい予知を早くわかるよう研究してほしい。
女性	40 歳代	防災訓練の避難場所は決まっているが、今回の地震でくずれているところもあるので、もう一度安全な場所を決めてほしい。津波のことも考えて。
女性	40 歳代	解体などの費用は行政で負担してほしい。無料で耐震診断を行ってほしい。耐震補強への補助もお願いしたい。指定避難所自体の耐震性を強化してほしい。子供が通う学校の耐震を早急に行ってほしい。
女性	40 歳代	矢本町の住民です。行政の対応はとても敏速に出来たと感じました。

性別	年代	自由回答
男性	50 歳代	1.家屋の損壊で修理しようとしても 貸付金の金利が低い条件がきびしすぎて、老人世帯や低所得の方々はほとんど融資を受けることができない。2.県民税、町民税について。減免は全壊半壊(家屋)が対象であり 条件が狭すぎると思う "
女性	50 歳代	我が家はそれほど被害はなかったのに特に要望はありません。自然災害の恐ろしさが身にしみて感じました。ボランティアの人達や自衛隊の隊員の人達、それぞれ役割をよくしてくれたと思います。いまだ、道路や土手の作業、又、グランドにはゴミの山、ガラスの山、これから大変な日々で、きれいな町にもどるにはまだまだ時間がかかりそうです。これでは地震はこないというのならいいのに、今まで以上の大きい地震が来るという・精神的にまいっている人も多いです。油断できない毎日を送っています。
男性	50 歳代	自衛隊の派遣により、道路側に落下した塀の撤去は速やかに行われたものの、自宅側に倒れた塀の片づけは個人の負担となった。人手の足りない世帯にとっては大変な苦労だったと思われる。町役場職員各位には、不眠不休で頑張ってください、感謝している。各種粗大ゴミ等の回収にも全力を尽くして応えていただき、頭の下がる思いだった。ただ、同じ町内でも全く被害のない地区もあり、町民それぞれに地震災害に対する意識の"温度差"も生じているようだ。
男性	50 歳代	危険建物の診断をされても、業者に依頼しを依頼するのにお金がかかり、すぐできない方もいる。国や県で何とかしてほしいもの。住居が全壊した方のために仮設住宅を建設することになったが、4 町にたったの 10 戸。しかも「ホームステイ」ということをまじめに言い出す知事の無能ぶり。個人や町の財政では復興は無理。県や国が援助すべきこと。それも早急にしないと、また自殺者が出かねない…。学校、病院、町舎などの公共的な建物は災害の時には避難場所や本部になる場所なので、耐震を早急に実施すべき。
男性	60 歳以上	電気と水の確保については万全であって欲しい。
女性	30 歳代	防災無線の使用があり、大体、町の状態を把握することができた。役場職員の皆さんも出来る限りのことはしていた様に思う。今後、被害の大きかった方々の住居の整備等に力を貸して差し上げて頂きたいと望む。
男性	50 歳代	毎日のように余震があり、崖くずれの二次災害がとても心配です。一日も早く対策を考えてほしいです。納屋の倒壊や、外見はなんともなくても、部屋の内装が亀裂、落下しているので一日も早い支援をお願いしたいです。
男性	50 歳代	1.ヘリコプターの騒音について。防災無線は最も身近で早い情報です。取材等のヘリコプターの騒音で十分に聞き取れない時が何度もありました。考えてほしいものです。2.アンケートの集計後について。この結果は町民の方々にも報告されるのですか。教えていただきたいとします。
女性	50 歳代	道路の段差復旧を早くお願いする。道路沿いの家なので、大型車が走行するたびに震度 1 ぐらいのゆれが感じられる。そのたびに被災した建物のスキ間が開いていく感じがする。
男性	60 歳以上	行政に一言。防災無線がきこえない。
女性	50 歳代	すべての情報をはっきりと知らせたい。防災無線が聞き取りにくいのではっきり聞こえる様配置していただきたい。中間場所。事後の金融その他の事について(相談の)もう少し期間を延長していただきたい。
男性	60 歳以上	被害面積・地域(範囲)・被害金額等、具備条件が厳しいと聞きましたが、震災の実態を充分考慮の上、是非とも激甚災害法の早期適用を講じるよう強く要望いたします。関西南海沖地震の事ばかり、国や学者、政治家がさわいでいるのに、度々地震の起きている三陸沖の事はわざわざにしている。国・政治家・学者、特に学者は事後の事ばかりで予知する計器など配置して、その地震の起こる予知に関心を持つべきではないでしょうか。起きてしまってからうぬぬしてももうおそいのです。
女性	50 歳代	防災無線放送はとても聞きづらいし、何を放送しているのかよくわからなかった。取材のヘリコプターが 5～6 機一同に飛んだ時はその振動と音で気がめいた。振動に敏感になって、恐怖になっているのもっと配慮がほしい。
女性	20 歳代	早く良かった。
女性	50 歳代	電気も消え、テレビも見ることが出来なかった状態です。防災無線による放送は、気持ちを落ち着かせてくれました。寝たきりの祖母をかかえ、どんな状態でも逃げる事など考えられず、不安な日々でした。時々、まだゆれていますので、この経験をふまえてよく考えたいと思います。行政関係の方々には、よく気づかって頂いたと思っています。それぞれの担当の方達で立場に応じた反省点など、これからの災害に役立ててほしいですね。要望や意見、私自身今のところ、考えられませんが。復旧に追い立てられている生活です。
女性	30 歳代	家族が一緒の時は安心だが、1人(5月の地震)で移動中などの時はケイタイも使えず、すごく心配だった。

性別	年代	自由回答
男性	40 歳代	私は預金が無く自分の家を建てている時大変でした。基礎は少し高い料金を取られました。私が思った基礎とは少し違っていました。都道府県での建築物の違いはいくらでしょうか。
女性	30 歳代	今回の地震を経験して思ったことは、被災者の精神的ダメージのケアがとても大切なことなのではないかと思いました。今後高い確率で起こるであろう地震にそなえ、特に一人暮らしの老人の方々に重点を置き、より良いケアができるよう考えてもらいたいと感じました。
女性	50 歳代	ヘリコプターの音で防災無線の放送がよく聞こえなかった。
女性	50 歳代	突然の災害時に行政のマニュアルはきちんと把握されているのか？と思うことが数々あります。痴呆などになっている高齢者がいると、家の中をかたづけて、お年寄りの世話をするのは大変ですが、避難所にお年寄りだけたのんでくるのは、どうしたらいいのかと思いましたが、世話をしてくれる人が配置されているのか。風呂が壊れて入れないとき、どうしたらいいのか。きちんと情報が入ってこない。震度なども町全体での報道では、だめだと思いました。同じ町でも道路一本でも被害の程度が違う様ですから。被災者のための仮設住宅の数も足りないと思います。1つの部落で全壊の家が6～7戸、山崩れの近くにすむ家族が8戸もあるのに、1つの町に10～30戸では少ないと思います。局地的なものなのかもしれないが、全壊した家から200m位しかはなれていない我が家だが、比較的新しい家のせいか、いづらか被害が少なかったが、行政からの救済など、必要ない様(?)な感じがした。
女性	40 歳代	行政にはではないのですが、マスコミのヘリコプターが早朝より何度も飛来し、音がうるさく防災無線ラジオが聞き取りにくく、精神的にも落ちつけず困りました。又、避難所でもしつこく質問されたりと、いやな思いをしました。
女性	40 歳代	今年の4月に夫が急死して、5月に宮城県沖地震。やっと私達も立ち直ろうとした矢先のこの地震。16才になる娘はいまだに家に入ることさえ出来ず、避難所生活をしています。このままではだめだと思い、思い切って生活環境を変えるため引越しを考えて、現在家探しをしています。家は生活ができる状態ではあるのですが、4階建てアパートの2階に住んでいるので3階と4階の重圧ですごく恐怖を感じて2度と住みたくないと言っています。家が全壊や半壊の人達には仮設住宅の入居ができるのに、私達みたいな心に傷をうけた人は自力で立ち直るしかないのです。なんの援助もないので経済的にも大変です。回りから見たら、ただの甘えているようにしか見えないのかもしれませんが、人の心の中はその人にしかわかりません。本当に不安で怖くてたまりません。いまだに食欲もなくこの先を考えるとどうしたらよいのか？
男性	40 歳代	被災家屋に対する援助をもっと拡大して頂きたいと思います。(家屋には補助金が出ますが、納屋等には全然出ません。壊すにも多額の資金が必要となりますが、景気も悪く、ただでさえ生活が大変なのにお金の工面が大変です。精神的にとってもつかれてしまいます)
女性	20 歳代	情報は早くて良かった。建物の耐震性をもっとよく調べてほしかった。
女性	60 歳以上	町の防災無線の設置が少ないせいか、私達の所ではあまり聞き取れずでした。皆さんの声でもあります。
男性	60 歳以上	町の防災無線装置が屋外のため、放送が屋内に聞こえないので、まったく役に立たなかった。
女性	30 歳代	給水車が来るのが遅かった。地震対策本部への問い合わせの対応が悪かった。ヘリがうるさくて、町の防災放送が聞こえにくく、余計に不安になった。雨が降っていて、屋外に出ることが出来なかったのに、町の関係者が1件1件まわってくれた事に安心をした。町内の放送がとても聞こえにくかったので屋内で聞けるようにしてほしいです。
女性	60 歳以上	行政の対応には感謝しております。又、他町村、他県の方々の励まし、お手伝い(ボランティアの方々)にはただただ頭の下がる思いです。これまでこんなに大きな災害は当町にはなかったもので、他人事と思っていたことがはずかしい思いです。
男性	50 歳代	スピーカーを使った町の広報が聞き取れない。
男性	60 歳以上	雨漏りがひどく、その対策を急がなければならないので、町当局の被害の状況を把握してほしい。なぜなら、被害の大小を決めてもらわないと、各種の見舞金の請求等に必要のため。
女性	60 歳以上	今回の地震で思った事は私家ではトタンの屋根なので、屋根がかかるので、今のところあまりこまるという事はない様です。本当にトタン屋根でよかったような気がしました。
女性	50 歳代	防災無線がヘリコプターのために聞こえなかった
女性	60 歳以上	改築しなければならないので、税金の免除、少ない郵便局の(40年物満期)の預金の地方税、国税の免除をお願いいたします。
女性	50 歳代	窓ガラスを入れるにも、トイレを直すにも、風呂を直すにも、先立つ物がありません。利子が安くて借りられる手段を教えて欲しいと思います。
男性	50 歳代	防災無線は情報伝達に有用な手段だが、風向き、時間帯(夜間は窓を閉めるため室内で聞こえない)により大切な内容等を聞き漏らすことが多かった。広報車等での伝達も必要であると思った。

性別	年代	自由回答
女性	50 歳代	防災無線の放送が聞き取りにくい。
男性	40 歳代	幸いにして本人もふくめ、家族にもケガもなく良かったです。消防団に所属しているので、自宅そっちのけでかけつけ、見回りや被害調査もしました。解散後も「大臣が来る」というだけで召集をかけられ、作業の中断を余儀なくされたのには閉口しました。国・県はともかく、地元自治体である町当局は被害もあったにもかかわらず、十分ではないが対応・対処は早かったようでありました。(再考すべき点もあるが)
男性	40 歳代	倒れた岩崩の処理、倒れた家財道具の整理、屋根瓦の処理、ボランティアの方々に大変お世話様になりました。有難うございました。
男性	60 歳以上	1.ボランティアの方々に大変助けられました。いち早く南郷町災害救援ボランティアを立ち上げたのは大変よかった。2.災害なんでも行政相談を南郷町役場に設置したのはよかった。3.住宅復旧相談を役場で実施した事はよかった。4.住宅廃材等の処分について、ゴミの種類、搬入先、搬入時間、搬入期間等プリントで示したのは大変よかった。5.常時放送で連絡を町に流したのはよかった。6.思ったよりも大変な被害なので、われわれのような年金暮らしの人々にも厚い援助を願いたい。
男性	40 歳代	1.避難場所になっている所の設備、食料、水、発電機等何もなかったです。その他、避難場所を移動するなどもってのほかです。最初から避難場所の指定をしないでほしいです。子供・おとしよりの事を考えてほしいです。2.防災無線を放送したようですが、全然聞こえませんでした。スピーカーの向きを考えてほしいです。非難するのか全然分かりませんでした。もっと町の対応をしつかりしてほしいです。3.持ち家の方に被害を尋ねていますが、借家の人には尋ねもしないし、忙しいのは分かりますけど一言聞きに来てほしかった。壊れた家材など捨てる所の指定がなにもありませんでした。
男性	50 歳代	各銀行で災害特別融資を行っているが、家が(基礎が石で出来ている)壊れた場合、危ないので家を解体するときの融資がない(普通融資で5%台)。家を建築しないとダメというのはおかしいと思う。今こんなに金利が安いというのに、銀行は国に守られ、かつまた我々庶民からこんなに金利を取るとい事は納得できない。テレビを見て感じた事。宮城県の田舎の出来事とい事で神戸の時とは国・県等の対応が全く違ったように思った。死者ゼロ・火災ゼロとい事でたいした事が無いと思っていたのだろうか。
女性	50 歳代	我が家では農機具に大きな被害がありました。母屋はヒビ等があったものの、注意の判断でしたが、古い家なので余震が続く中、子供達をどの部屋に置いても不安です。しかし、危険と判定された方々、全壊だった方々もご近所に沢山おいでになります。ひと暮らしのご老人もいます。避難場所の利用や避難方法等、一定のマニュアルがあれば、又ボランティアの方々も地域でどのような動きが必要か、ここまでは、これから先は等のラインがよく分からなかった。
女性	60 歳以上	防災無線の放送はあっても、普段でさえ聞き取れないのにマスコミのヘリコプターの騒音のため、防災無線は全然役に立たなく、人の不幸を面白おかしく撮影しているようで腹立たしく感じました!! 災害の状況の検査方法も聞き取りでなく、家の中に入りよく確認していただきたかったと思う。また、被害のひどいところだけでなく、町全体をよく見てほしかったです。
女性	50 歳代	役所職員、消防に携わっている皆さん、自分の家をなげて町民の為に色々手を尽くしてくださいって本当に敬服いたしました。同じ町民なのに、同じく不安があったらうに、本当に有難うございました。ご苦労様でした。
女性	40 歳代	宮城県沖で25年前に大きな地震を知り、いつかまた来るであろうこの地震に少なからず心構えをしていたのに、今回の直下ではドスン・グラで子どもに駆け寄り助けようとするだけでいっぱいだった。ひとつ間違えれば娘を亡くしたかもしれないという心の痛み。なかなかきえませんが、国・町では「カウンセリングへ」と町報などで言ってくれてますが、そんな暇は正直ありません。毎日、この地震でなくした生活品、病院。考える事がほかにいっぱいあるし、たいした被害に見えた目っていないような住宅暮らしの私達でも、なんやかんやとかがります。国・町に書類を出せばある程度お金の方も見て頂けますが、仕事も休めず、休みは子供のケアや家の事とでいっぱい。どう、本当に大変なのはみな同じかもしれませんが、以上のように手続きとかなかなか出来ずにいる人達にも災害補償を少なくともして頂ければ少しは明かりが見えてきそうな気がします。好き勝手書いてすみません。日々の生活にまだ不安がある者の愚痴です。
男性	60 歳以上	防災無線は各家庭に付けてほしい。